



# Norton AntiVirus<sup>TM</sup> 2003

Norton AntiVirus<sup>TM</sup>  
ユーザーズガイド

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

## 著作権

Copyright © 1995-2002 Symantec Corporation. All Rights Reserved.

このマニュアルの一部または全部を許可なく複製することはできません。

## 商標

Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、Norton Utilities、LiveUpdate、Rescue Disk は Symantec Corporation の米国における登録商標です。

Norton SystemWorks、Norton Internet Security、Symantec Security Response は Symantec Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

Printed in Ireland.

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

## シマンテックソフトウェア使用許諾契約:

**重要:** 本ソフトウェアをご使用になる前にこのライセンス契約の条項をよくお読み下さい。シマンテック・コーポレーションおよび/またはその子会社(「シマンテック」といいます)は、このライセンス契約の全てに同意されることを条件として、本ソフトウェアをご利用になる個人、会社または法的主体であるお客様に対して本ソフトウェアの使用を許諾いたします。このライセンス契約は、お客様とシマンテックとの間の法律上の強制力のある契約です。パッケージを封開すること、封をがすこと、「同意」または「はい」もしくは同意を意味する表示を電子的にクリックすること、またはソフトウェアをロードすることにより、お客様はこの契約に同意したものとみなされます。もし、お客様がこれらの条項に同意されないときは、「同意しません」または「いいえ」もしくは不同意を意味する表示をクリックし、本ソフトウェアを使用することなく、購入先の販売店に購入後 60 日以内に購入の証明とともに製品をご返品ください。引き替えに代金をご返金いたします。

### 1. 使用許諾契約

本使用許諾契約の対象となるソフトウェア(以下、単に「本ソフトウェア」といいます)は、シマンテックおよび本ソフトウェアの使用許諾権者の所有物であり、著作権法によって保護されています。シマンテックは本ソフトウェアの所有権を引き続き保持しますが、本使用許諾契約に同意したお客様に、本ソフトウェアの一定の使用権を設定します。このライセンスは、シマンテックがお客様に提供するソフトウェアのすべてのリリース、修正および改良にも適用されます。このライセンスに付属し、先立ちまたは遅れて、シマンテックのライセンス証書、ライセンス・クーポンまたはライセンス・キー(それぞれを「ライセンス・モジュール」といいます)による修正がなされた場合を除き、本ソフトウェアの使用に関するお客様の権利義務は次のとおりです。

### 許諾事項

- 本ソフトウェアのコピーを1つだけ1台のコンピュータで使用する。ライセンス・モジュールがこのライセンス契約に付属し、先立ちまたは遅れて成立するときは、そのライセンス・モジュールの定めるところにより、シマンテックがお客様にライセンスする本ソフトウェアのコピーをその許諾数だけ作成することができます。お客様のライセンス・モジュールは、このようなコピーを作成する権利の証明書となります。
- 本ソフトウェアのコピーをバックアップの目的で1つだけ作成すること。または、本ソフトウェアをコンピュータのハードディスクにコピーし、オリジナルをバックアップの目的で保管すること。
- 本ソフトウェアをネットワーク上で使用すること。ただし、ネットワークを介して本ソフトウェアを使用できるすべてのコンピュータが、本ソフトウェアの使用を正式に許可されている場合に限ります。
- シマンテックに対する書面による通知の後、本ソフトウェアを他人(法人を含む)に永久的に譲渡すること。ただし譲り受け人が本使用許諾契約に同意した場合に限ります。

### 禁止事項

- 本ソフトウェアに付随しているマニュアルなどの文書をコピーすること。
- 本ソフトウェアの一部または全部を問わず、再使用許諾、貸与、またはリースをすること。本ソフトウェアのソースコードを調べたり、本ソフトウェアを模倣した製品を作る目的でリバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、修正、翻訳、その他の試みを行うこと。
- お客様が本ソフトウェアの代替セットまたはアップグレード版をお受け取りになったのちに、従前のバージョンまたはコピーを使用されること。ソフトウェアのアップグレードに伴い、従前のバージョンのコピーは、すべて破棄するものとします。
- このライセンス契約により提供された本ソフトウェアより新しいバージョンを、アップグレード保険を購入され、または別途その新しいバージョンの権利を取得されることなく使用すること。
- 複数のシマンテック製品を格納したメディアにより本ソフトウェアを受け取られたときに、ライセンス・モジュールにより許諾されていない他のシマンテックのソフトウェアを使用すること。または、このライセンス契約が認めていない方法により本ソフトウェアを使用すること。

## 2. コンテンツのアップデート

一定のシマンテック・ソフトウェアは、随時アップデートされるコンテンツを利用してあります(アンチウイルス製品は、ウイルス定義を更新し、フィルタリング製品は、URL リストを更新し、ファイアウォール製品は、ファイアウォールのルールを更新し、セキュリティの脆弱製品の評価製品は、脆弱性データを更新する等、これらの更新を併せて「コンテンツ・アップデート」といいます)。

お客様は、本ソフトウェアに対するコンテンツ・アップデートをご購入されたとき(本ソフトウェアご購入当初から含まれていた場合を含みます)、本ソフトウェアのアップグレード保険をご購入されたとき、コンテンツ・アップデートを含むメンテナンス契約をされたとき、または、別途コンテンツ・アップデートを受ける権利を取得されたときは、その期間内、コンテンツ・アップデートを受けることができます。このライセンス契約は、記載された場合以外にコンテンツ・アップデートを受け、または、使用することを許諾するものではありません。

### 3. 保証の限定

シマンテックは、本ソフトウェアの引き渡しから 60 日間にわたって、本ソフトウェアの供給媒体に瑕疵がないことを保証します。この保証内容に違反する事態が生じた場合、お客様の唯一の救済方法として、シマンテックは保証期間内に返送を受けた現貨のある媒体の代品を提供するか、本ソフトウェアのご購入代金の払い戻しをいたします。ただし、どちらの方法を探るか本ソフトウェアがお客様の要望にかなうものであること、本ソフトウェアの操作に障害が発生しないこと、および、本ソフトウェアの内容に誤りがないことを保証するものではありません。

上記の保証がシマンテックの行う保証のすべてであり、商品価値を有すること、お客様の特定の目的にかなうこと、および、法律違反・権利侵害が存在しないことを含む明示的、黙示的の一切の保証に代わるものではありません。上記の保証は、お客様に特定の法的権利を付与しますが、国によっては、法律でお客様にその他の権利が与えられることがあります。

### 4. 免責

州または国(欧州経済圏のメンバー国を含む)によって、付随的または間接的損害に対する責任の制限または免除を認めていません。その場合、次の制限または免責は、お客様に適用されないことがあります。

適用を受ける法律により認められる最大限において、また、本使用許諾契約で定める救済手段が主たる目的を達することができるかどうかにかかわらず、シマンテックおよびそのライセンサーは、お客様に対し、特別、間接的、付随的または類似の損害(本ソフトウェアの使用または使用不能によって生じうる逸失利益、データ損失を含みますが、これらに限定されません)について、シマンテックが当該損害の可能性を通知していたとしても、一切の責任を負いません。

いかなる場合にせよ、シマンテックの賠償責任が、本ソフトウェアのご購入代金を超えることはありません。上記の責任限定・免責規定は、お客様が本ソフトウェアを返品するか否かにかかわらず適用されます。

### 5. 米国政府の制限された権利

シマンテックの一切の製品および書類は、本質的に商業用です。本ソフトウェアおよびソフトウェア関連書類は、「Commercial Items」(48 C.F.R. section 2.101 に定義)であり、「Commercial Computer Software」および「Commercial Computer Software Documentation」(48 C.F.R. section 252.227-7014(a)(5) および 48 C.F.R. section 252.227-7014(a)(1) に定義され、48 C.F.R. section 12.212 および 48 C.F.R. section 227.7202 で使用)により構成されます。48 C.F.R. section 12.212, 48 C.F.R. section 252.227-7015, 48 C.F.R. section 227.7202 ないし 227.7202-4, 48 C.F.R. section 52.227-14, その他他 Code of Federal Regulations の関連セクションに従い、シマンテックのコンピュータ・ソフトウェアおよびコンピュータ・ソフトウェア関連書類は、エンドユーザーである米国政府に対し、他の一般エンドユーザーに対する場合と同様に、本契約の条項に従ってライセンスされます。製造者は、シマンテック・コーポレーション (20330 Stevens Creek Blvd., Cupertino, CA 95014) です。

### 6. 輸出規制

本ソフトウェアの輸出、再輸出は、米国の法令および他国の法令によって規制されています。禁止対象者リストおよび米国政府の諸機

関によって作成されたその他のリスト記載の存在に対する本ソフトウェアの輸出、再輸出は、厳しく禁止されています。

## 7. その他

お客様が北米または南米にお住まいの場合、本使用許諾契約は、米合衆国カリフォルニア州法が適用されます。その他の場合は、英国法が適用されます。本使用許諾契約および関連するライセンス・モジュールは、本ソフトウェアに関するお客様とシマンテックの間の完全唯一の契約であり、(i) 現在・過去の口頭・書面による本使用許諾に関する全ての通信、提示および表明にとって代わり、かつ、(ii) 当事者間の見積、申込、承諾または類似の通信における条項の抵触または追加に優先するものとします。本使用許諾契約は、お客様がいずれかの条項に違反したときに終了します。その場合、お客様は、本ソフトウェアの全てのコピーの使用を中止し、これらを廃棄しなければなりません。保証、損害および責任制限の免責は、契約終了後も効力を存続します。本使用許諾契約は、このライセンス契約に付属しているライセンス・モジュールまたはお客様とシマンテックが署名した書面によってのみ修正することができます。本使用許諾契約にご質問があるときは、または、理由にかかわらず、シマンテックにご連絡があるときは、: (i) Symantec Customer Service, 555 International Way, Springfield, OR 97477, USA または、(ii) Symantec Customer Service Center, PO BOX 5689, Dublin 15, Ireland まで書面にてお問い合わせください。

# 目次

## 第 1 章

### 概要

Norton AntiVirus の新機能 .....	1-1
ウイルスの働き .....	1-2
すばやく伝染するマクロウイルス .....	1-2
本当の目的を隠すトロイの木馬 .....	1-3
領域を占有するワーム .....	1-3
ウイルスはどのようにして伝染するか .....	1-3
Norton AntiVirus の働き .....	1-4
既知のウイルスを阻止する	
ウイルス定義ファイルサービス .....	1-4
未知のウイルスを阻止する Bloodhound 技術 .....	1-5
スクリプトベースのウイルスを	
阻止するスクリプト遮断 .....	1-5
伝染しないうちにワームを阻止するワーム遮断 .....	1-5
安全を維持する Auto-Protect .....	1-6
保護体制の維持のしかた .....	1-6
ウイルスを避ける .....	1-6
緊急時の準備 .....	1-7

## 第 2 章

### インストール

インストール前にすること .....	2-1
ウイルスの疑いがある場合 .....	2-1
コンピュータの準備 .....	2-1
緊急用ディスクセットの作成 .....	2-2
インストール .....	2-3
開始画面が表示されない場合 .....	2-6
インストール後にすること .....	2-6
コンピュータの再起動 .....	2-7

情報ウィザードの使い方 .....	2-7
README.TXT ファイルを読む .....	2-8
Norton AntiVirus のアンインストール .....	2-9

## 第 3 章

### Norton AntiVirus の基本

Norton AntiVirus ツールへのアクセス .....	3-1
Norton AntiVirus メインウィンドウの使い方 .....	3-1
Windows エクスプローラのツールバーの使い方 .....	3-2
Windows トレーの Norton AntiVirus アイコンの使い方 .....	3-2
Auto-Protect を一時的に無効にする .....	3-3
Norton AntiVirus 保護の維持 .....	3-4
救済ディスクセットについて .....	3-4
救済ディスクセットの作成 .....	3-4
救済ディスクセットのテスト .....	3-5
救済ディスクセットの更新 .....	3-6
システム状態の確認 .....	3-6
Office プラグイン状態の確認 .....	3-7
Norton AntiVirus のカスタマイズ .....	3-8
システムオプションについて .....	3-9
インターネットオプションについて .....	3-10
その他オプションについて .....	3-11
オプションの変更 .....	3-11
オプションをデフォルト設定に戻す .....	3-12
オプションのパスワード保護 .....	3-13
Norton AntiVirus 活動の監視 .....	3-13
詳しい情報 .....	3-14
用語集の参照 .....	3-14
ヘルプの使い方 .....	3-15
『ユーザーズガイド』の使い方 .....	3-16
Web 上の Norton AntiVirus について .....	3-17

## 第 4 章

### ウイルスからのコンピュータの保護

保護設定の確認 .....	4-1
ディスク、フォルダ、ファイルの手動スキャン .....	4-3
システムの完全スキャンの実行 .....	4-4
個々の要素のスキャン .....	4-4
スキャン中に問題が見つかった場合 .....	4-5
カスタムスキャンの作成と使い方 .....	4-5
カスタムスキャンの実行 .....	4-6
カスタムスキャンの削除 .....	4-7
スキャンのスケジュール設定 .....	4-7
カスタムスキャンのスケジュール設定 .....	4-8

定時スキヤンの編集 .....	4-9
スキヤンスケジュールの削除 .....	4-9

## 第 5 章

### LiveUpdate による最新の保護体制の維持

プログラムの更新版について .....	5-1
保護ファイルの更新版について .....	5-2
更新サービスについて .....	5-2
更新する頻度 .....	5-3
更新の警告の要求 .....	5-3
社内ネットワーク上で LiveUpdate を実行する場合 .....	5-3
LiveUpdate 以外による更新版の入手 .....	5-3
LiveUpdate を使って更新版を入手 .....	5-4
LiveUpdate を対話モードまたは高速モードに設定 .....	5-4
高速モードをオフにする .....	5-5
LiveUpdate の自動実行 .....	5-5

## 第 6 章

### コンピュータでウイルスが見つかったときの処理

スキヤン中にウイルスが見つかった場合 .....	6-1
修復の詳細の見直し .....	6-2
修復ウィザードの使い方 .....	6-2
Auto-Protect によってウイルスが見つかった場合 .....	6-3
Windows 98/98SE/Me を使っている場合 .....	6-3
Windows 2000/XP を使っている場合 .....	6-4
スクリプト遮断によってウイルスが見つかった場合 .....	6-5
ワーム遮断によって脅威が見つかった場合 .....	6-5
システムファイルの変更について	
予防接種の警告が表示される場合 .....	6-6
検疫にファイルがある場合 .....	6-7
Norton AntiVirus がファイルを修復できない場合 .....	6-8
コンピュータが正しく起動しない場合 .....	6-9
救済ディスクセットを使う必要がある場合	
(Windows 98/98SE/Me) .....	6-9
緊急用ディスクセットを使う必要がある場合 .....	6-10
シマンテック社の Web サイトでのウイルスの検索 .....	6-11
Norton AntiVirus でのウイルスの検索 .....	6-12

## 第 7 章

### トラブルシューティング

シマンテック社のサービスとサポートの	
Web サイトでの情報探索 .....	7-1
Norton AntiVirus のトラブルシューティング .....	7-2
救済ブートディスクが動きません .....	7-2

「救済ディスクセットを使ってください」という 警告メッセージが表示されますが、 救済ディスクセットを作成していません .....	7-3
コンピュータをフロッピーディスクドライブで ブートできません .....	7-3
コンピュータの起動時に Auto-Protect が ロードされません .....	7-4
スキャンしてウイルスを除去しましたが、 まだファイルがウイルスに感染しています .....	7-5
感染ファイルを Norton AntiVirus が修復できません .....	7-6
基本救済ディスクセットをテストすると エラーが表示されます .....	7-6
電子メールメッセージを受信できません .....	7-7
電子メールメッセージを送信できません .....	7-8

## 用語集

## 索引

Norton AntiVirus はウイルスを防止、検出、除去するための機能を備えた、Windows コンピュータのための総合的なウイルス対策ソフトウェアです。データを安全に守るために自動的に感染ファイルを見つけて修復する働きがあります。インターネット経由によるウイルス定義ファイルサービスの簡単な更新によって Norton AntiVirus は最新の脅威に備えます。ワーム遮断とスクリプト遮断はウイルス定義ファイルがまだ作成されていないときに新種の脅威を検出して保護を強化します。

## Norton AntiVirus の新機能

Norton AntiVirus 2003 で導入されたのはファイルの修復オプションと削除オプションの拡張、インスタントメッセージの添付ファイルに対するウイルス防止、ワーム遮断、Norton AntiVirus オプションのパスワード保護、保護活動の内容をわかりやすく表示するログビューアです。新機能は次のとおりです。

### ファイルの修復と削除の機能拡張

Norton AntiVirus は修復可能なすべてのファイルをユーザーとの対話なしで自動的に修復するようになりました。ワームまたはトロイの木馬を見つけると Norton AntiVirus は感染ファイルを自動的に削除します。

### インスタントメッセージのサポートとオプション

Norton AntiVirus は America Online、Yahoo!、MSN のインスタントメッセージプログラムが受信したファイルをスキャンするようになりました。3 つのプログラムのいずれかまたはすべてのプログラムの受信ファイルをスキャンするように選択できます。Norton AntiVirus は感染ファイルを自動的に修復または検疫します。

## ワーム遮断

Norton AntiVirus は発信電子メールの添付ファイルをスキャンしてワームの有無を調べ、**感染ファイル**があればその送信前に警告します。Norton AntiVirus がワームを遮断して適切な処理を提示するので、電子メールメッセージでワームを送信するのを防止できます。

## パスワード 保護

Norton AntiVirusでオプション設定を制御するためにパスワードの設定、変更、リセットができるので、権限のないユーザーはウイルス防止の設定を改ざんできません。

## ログビューア

Norton AntiVirus はウイルス警告、アプリケーション、エラーについての情報を整理します。活動をいくつ記録したいかを決定してください。

# ウイルスの働き

ソフトウェアの**ウイルス**とはユーザーの認知または許可なくコンピュータの動作を改変するように意図的に書かれた寄生プログラムです。ウイルスは自己の複製をファイルに付着します。それが活動すると、ファイルを損傷したり、システムが誤動作する原因になったり、メッセージを表示したりします。

コンピュータウイルスは実行可能ファイルやマクロ機能のあるデータファイルに感染します。ウイルスは感染したファイルを実行するか、感染したファイルが入っているディスクで起動するか、感染したデータファイルを開くまでは活動しません。いったんウイルスが活動すると、少なくともコンピュータのメモリにロードされ、アクセスしたディスク上のプログラム、ファイル、データファイル、テンプレートに自己の複製を付着します。一部のウイルスは、プログラムを壊したり、ファイルを削除したり、ハードディスク全体を消去するように特にプログラミングされています。

## すばやく伝染するマクロウイルス

マクロは表計算ワークシートでの計算やデータファイルでの繰り返し作業の自動化などをするために使われる単純なプログラムです。マクロはMicrosoft WordやMicrosoft Excelのようなプログラムによって作成されるファイルに書かれます。

マクロウイルスとはファイルからファイルに自己を複製するように設計された悪質なマクロプログラムです。多くの場合、データを変更また

は破壊する可能性があります。マクロウイルスはプラットフォームを越えて移動でき、**感染ファイル**を開くと必ず伝染します。

## 本当の目的を隠すトロイの木馬

トロイの木馬とは実用性または（ゲームのような）娯楽性があるように見えるプログラムです。知らない人はつい実行したくなりますが、実行するとファイルを損傷したりコンピュータにウイルスを送るなどの別の目的が潜んでいます。

トロイの木馬は増殖や伝染はしないのでウイルスではありません。ウイルスではないため、トロイの木馬が入ったファイルの修復はできません。しかし、コンピュータの安全性を確保するために Norton AntiVirus はトロイの木馬を検出してコンピュータから削除する働きをします。

## 領域を占有するワーム

ワームとは他のプログラムに感染しないで増殖するプログラムです。一部のワームは自己をディスクからディスクに複製しながら伝染します。特定の種類のファイルを見つけてそれらを損傷または破壊しようとしています。ワームはメモリ上でのみ増殖し、複製された無数のワームのすべてがいっせいに動作すると、コンピュータの処理速度が低下します。一方、電子メールのアドレスリストに伝染し、ユーザーの知らないうちに自己を電子メールで送信できるワームもあります。トロイの木馬のようにワームもウイルスではないため修復はできません。しかし、コンピュータから削除する必要があります。

## ウイルスはどのようにして伝染するか

ウイルスは感染したプログラムを実行したり、感染したシステムファイルが入っているディスクでコンピュータを起動したり、感染したデータファイルを開いたときに伝染します。たとえば、ワープロのプログラムにウイルスがいる場合、ウイルスはそのプログラムを実行したときに活動します。いったんウイルスがメモリに入り込むと、（ネットワークのフォルダやディスクに変更を加えることができる場合には）**ネットワーク**上のプログラムも含めて通常は実行中のプログラムに感染します。

ウイルスが伝染する経路はいろいろです。一部のウイルスはコンピュータの電源が切れるまで活動します。プログラムが動作している間のみ活動するウイルスもあります。コンピュータの電源を切ったりプログラムを終了することでメモリ上のウイルスを除去できますが、感染したファイルやディスクからは除去できません。つまり、ウイルスがオペレー

ティングシステムファイルに存在すると、次回から感染したディスクでコンピュータを起動することになりウイルスが活動する恐れがあります。プログラムにウイルスが存在する場合は、そのプログラムを次回実行したときにウイルスが活動する可能性があります。

ウイルスに感染したプログラムがコンピュータに入り込まないようにするために、プログラムのコピーや実行をする前に Norton AntiVirus がファイルを自動的にスキャンします。インターネットでダウンロードするプログラムや受信する電子メールの添付ファイルについても同じです。

ウイルスは電子メールとインスタントメッセージの添付ファイルに伝染します。Norton AntiVirus は着信と発信の電子メールメッセージとインスタントメッセージの添付ファイルで潜在的な脅威を監視します。

## Norton AntiVirus の働き

Norton AntiVirus はコンピュータの既知のウイルスと未知のウイルスを監視します。既知のウイルスとは検出できて名前で識別できるウイルスです。未知のウイルスとは Norton AntiVirus にまだ定義がないウイルスです。

Norton AntiVirus はコンピュータを絶え間なく監視して両方の種類のウイルスから保護します。既知のウイルスの検出にはウイルス定義ファイルを使い、未知のウイルスの検出には Bloodhound 技術、スクリプト遮断、ワーム遮断を使います。ウイルス定義ファイル、Bloodhound 技術、スクリプト遮断、電子メールとインスタントメッセージのスキャンのすべてが定時スキャン中と手動スキャン中に使われ、コンピュータを定期的に監視するために Auto-Protect によっても使われます。

## 既知のウイルスを阻止するウイルス定義ファイルサービス

p.6-12 の「Norton AntiVirus でのウイルスの検索」を参照してください。

ウイルス定義ファイルの更新サービスは Norton AntiVirus がウイルスを認識してその活動を阻止するために使うファイルを更新します。Norton AntiVirus でウイルス名を検索し、シマンテック社の Web サイトでその説明のウイルス辞典にアクセスできます。

## 未知のウイルスを阻止する Bloodhound 技術

Bloodhound とは新種のウイルスと未知のウイルスを検出するための Norton AntiVirus スキャン技術です。ファイルの構造、動作、属性（プログラミングロジック、コンピュータ命令、ファイルの中のデータなど）を分析することによってウイルスを検出します。さらにデータファイルをロードしてマクロウイルスのテストをするシミュレート環境の設定もします。

## スクリプトベースのウイルスを阻止するスクリプト遮断

スクリプトは Visual Basic Script または JavaScript などのスクリプト言語で書かれたプログラムで、ユーザーとの対話なしで実行できます。スクリプトはテキストエディタまたはワープロで開くことができるため変更が非常に簡単です。

スクリプトはインターネットのログオン時や電子メールを検査するときに使えます。コンピュータを再起動すると、スクリプトによってロードして実行するプログラムがコンピュータに指示されます。

スクリプトは起動時に悪質な活動を実行するように書くこともできます。感染したデータファイルまたは電子メールの添付ファイルを開いたり、感染した [HTML](#) 電子メールメッセージを表示したり、感染したインターネット Web サイトにアクセスしたりすると、知らないうちに悪質なスクリプトを受け取る可能性があります。

スクリプト遮断は特定のウイルス定義ファイルを必要としないで Visual Basic と JavaScript のウイルスを検出します。[ウイルスらしい活動](#)をスクリプトで監視し、見つかったときに警告します。

## 伝染しないうちにワームを阻止するワーム遮断

ワームはファイル内に潜伏し、ファイルを開くまでは活動状態になることも危険を及ぼすことはありません。知らないうちに感染ファイルをコピーしたり電子メールで送信したりする可能性があります。ワームに感染したファイルは修復できないので削除する必要があります。

ワーム遮断はすべての発信電子メールメッセージをスキャンし、悪質なワームが検出されると警告します。ワームが検出されると Norton AntiVirus がそのワームを遮断して適切な処理を提示するので、電子メールメッセージでワームを送信するのを防止できます。

## 安全を維持する Auto-Protect

Norton AntiVirus Auto-Protect は Windows の起動と同時にメモリにロードされ、ユーザーが作業をする間もバックグラウンドでウイルスが侵入しないかどうか見張る役目をします。

Norton AntiVirus は Auto-Protect を使って自動的に次のことをします。

- ウイルスやワーム、悪質なコードを（マクロウイルスも含めて）除去し、損傷したファイルを修復する
- 以下を使うときにウイルスがないかどうか調べる
  - コンピュータ上のソフトウェアプログラム
  - フロッピーディスクやリムーバブルメディア
  - ワープロ文書や表計算ワークシートなどのデータファイル
- ウイルスの活動を示す異常な兆候がないかどうかコンピュータを監視する
- インターネットを媒介とするウイルスからコンピュータを守る

## 保護体制の維持のしかた

Norton AntiVirus をインストールした場合、コンピュータは完全にウイルスから保護されます。しかし、新種のウイルスは絶えず作成されています。ウイルスは感染ディスクからコンピュータを起動したときまたは感染プログラムを実行したときに伝染する可能性があります。ウイルスを避け、そしてウイルスが見つかった場合にすばやく回復するためにできることがいくつもあります。

## ウイルスを避ける

定期的なファイル保守を習慣にして Norton AntiVirus を最新の状態に保つことが重要です。

ウイルスを避けるには

- リムーバブルメディアを書き込み禁止にします。
- シマンテック・セキュリティ・レスポンスの Web サイト (<http://www.symantec.com/region/jp/sarcj/>) にログインしてウイルス情報（ウイルスとウイルス定義ファイルについて頻繁に更新される広範囲の情報）を入手します。

p.3-17の「Web上のNorton AntiVirusについて」を参照してください。

「第5章 LiveUpdate による最新の保護体制の維持」を参照してください。

p.4-3の「ディスク、フォルダ、ファイルの自動スキャン」を参照してください。

p.4-7の「スキャンのスケジュール設定」を参照してください。

p.4-1の「保護設定の確認」を参照してください。

- LiveUpdate が常にオン（有効）になるようにして、絶え間なくウイルス定義ファイルを更新します。
- 定期的に LiveUpdate を実行して新しいプログラムの更新版を受信します。
- Norton AntiVirus Auto-Protect が常にオン（有効）になるようにして、ウイルスのコンピュータ感染を防止します。
- Norton AntiVirus Auto-Protect がオン（有効）になっていない場合にはリムーバブルメディアを使う前に必ずスキャンします。
- 定期スキャンが自動的に行われるようにスケジュール設定します。
- 不明な送信元からの電子メールに注意します。匿名の添付ファイルは開かないでください。
- ワーム遮断が常にオン（有効）になるようにして、感染した電子メールの添付ファイルを送信するのを防止します。
- スクリプト遮断が常にオン（有効）になるようにして、ウイルスらしい活動を検出します。
- 保護を最大限にするためのすべての推奨設定を常に有効にします。

## 緊急時の準備

コンピュータがウイルスに感染した場合に備えることも重要です。

### 緊急時の準備をするには

p.2-2の「緊急用ディスクセットの作成」を参照してください。

p.3-4の「救済ディスクセットについて」を参照してください。

- ファイルのバックアップを定期的に作成して最新のバックアップを必ず維持するようにします。
- CDで起動できないコンピュータを使っている場合には緊急用ディスクセットを作成します。このディスクセットでコンピュータを起動しウイルススキャンを実行できます。
- Windows 98/Me の場合は救済ディスクセットを作成して最新の状態に維持します。このディスクセットでコンピュータをDOSモードで起動し、Norton AntiVirus を使ってウイルス関連の問題を解決してシステムクラッシュから回復できます。



Windows 98/Me のユーザーは救済ディスクセットを作成するために空の（または消去していい）1.44MB のフロッピーディスクを数枚用意してください。

## インストール前にすること

Norton AntiVirus をインストールする前にコンピュータを準備してください。CD でコンピュータを起動できない場合には緊急用ディスクセットを作成します。

## ウイルスの疑いがある場合

p.6-10の「CDを緊急用ディスクとして使う場合」を参照してください。

インストールしようとしたときにコンピュータにウイルスがあると Norton AntiVirus はコンピュータの再起動を要求します。Norton AntiVirus CD を使って再起動し、コンピュータのハードディスクをウイルススキャンしてください。Norton AntiVirus 緊急プログラムは Norton AntiVirus CD のウイルス定義ファイルを使いますが、LiveUpdate を使ってもっと新しいウイルス定義ファイルをダウンロードできます。

ウイルス感染を修復したら、強制シャットダウン後に残っている一時フォルダの Norton AntiVirus インストールファイルを削除してください。

## コンピュータの準備

Norton AntiVirus 2000 ～ 2002 のバージョンがある場合には新しいバージョンによって古い方のバージョンが自動的に削除されます。2000 よりも古いバージョンの場合には新しいバージョンをインストールする前に古いバージョンをアンインストールする必要があります。Norton

AntiVirus 2002 の場合、既存のオプション設定を新しいバージョンのプログラムに転送できます。

Norton AntiVirus をインストールする前に次の提案に従ってコンピュータを準備してください。

p.2-9の「Norton AntiVirusのアンインストール」を参照してください。

- Norton AntiVirus をインストールする前に他のアンチウイルスソフトウェアをアンインストールしてコンピュータを再起動する必要があります。  
他のアンチウイルスソフトウェアをアンインストールするにはそのソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。
- オペレーティングシステムをWindows 98/MeからWindows 2000/XPにアップグレードする場合は、まず Norton AntiVirus をアンインストールしてください。アップグレードが完了したら、再度インストールします。  
Windows 2000/XP にインストールする場合、管理者の権限が必要です。
- Norton AntiVirus をインストールする前にWindowsのトレイに表示されているプログラムを含む他のすべてのWindowsプログラムを終了します。

## 緊急用ディスクセットの作成

p.6-10の「緊急用ディスクセットを使う必要がある場合」を参照してください。

緊急用ディスクセットは問題がある場合にコンピュータを起動してウイルススキャンするために使います。CDでコンピュータを起動できる場合には緊急用ディスクセットの代わりにNorton AntiVirus CDを使えるため、緊急用ディスクセットを作成する必要はありません。

CDでコンピュータを起動できない場合には次の操作手順に従って別のコンピュータ上で緊急用ディスクセットを作成できます。



空の（または消去していい）1.44MBのフロッピーディスクを数枚用意します。

**CDから緊急用ディスクセットを作成するには**

- 1 Norton AntiVirus CDをCD-ROMドライブに挿入します。
- 2 [CDの参照(B)]をクリックします。
- 3 Supportフォルダをダブルクリックします。
- 4 Ediskフォルダをダブルクリックします。
- 5 NED.exeをダブルクリックします。
- 6 ようこそウィンドウで[OK]をクリックします。

- 7 指示に従い 1 枚目のディスクにラベルを貼り、そのディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 8 [はい(Y)] をクリックします。
- 9 2 枚目以降のディスクについてステップ 7 と 8 を繰り返します。
- 10 手順が完了したら [OK] をクリックします。
- 11 フロッピーディスクドライブから最後のディスクを取り出し、安全な場所に緊急用ディスクセットを保管します。

## インストール

Norton AntiVirus は Norton AntiVirus CD でインストールします。

### Norton AntiVirus をインストールするには

- 1 Norton AntiVirus CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 Norton AntiVirus ウィンドウで [Norton AntiVirus 2003 のインストール (I)] をクリックします。  
CD が自動的に開く設定のコンピュータでない場合には手動で開く必要があります。



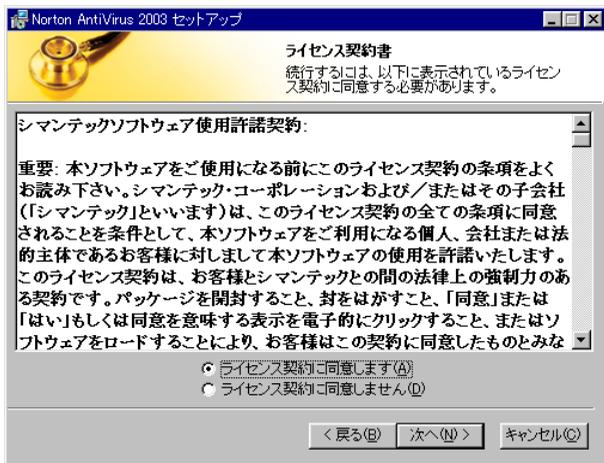
Norton AntiVirus がダウンロード済みで CD を使わない場合、Norton AntiVirus フォルダを開いて setup.exe をクリックしてください。

- 3 Windows 98/98SE/Me にインストールする場合にはインストールの前にコンピュータのメモリがウイルススキャンされます。ウイルスが見つかったら、緊急用ディスクセットを使ってウイルスを除去してから続行するように要求されます。
- 4 インストールの開始ウィンドウで他のすべての Windows プログラムを閉じるように要求されます。

p.2-6 の「開始画面が表示されない場合」を参照してください。

p.6-10 の「緊急用ディスクセットを使う必要がある場合」を参照してください。

- 5 [次へ(N)] をクリックします。



- 6 ライセンス契約を読み [ライセンス契約に同意します(A)] を選択します。

同意しないとインストールは続行できません。

- 7 [次へ(N)] をクリックします。



- 8 [参照(R)] をクリックし、Norton AntiVirus のインストール先フォルダを選択します。

- 9 [次へ(N)] をクリックします。



- 10 インストールの場所を確認してから [次へ(N)] をクリックします。



p.2-8の  
「README.TXT  
ファイルを読む」  
を参照してくだ  
さい。

- 11 Norton AntiVirus のインストール後、README.TXT ファイルを読ん  
でから [次へ(N)] をクリックします。



- 12 [終了(F)] をクリックしてインストールを終了します。

## 開始画面が表示されない場合

コンピュータの CD-ROM ドライブで CD が自動的に起動しないことがあります。

Norton AntiVirus CD でインストールを開始するには

- 1 デスクトップ上で [マイコンピュータ] をダブルクリックします。
- 2 [マイコンピュータ]ダイアログボックスで CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックします。

## インストール後にすること

Windows 98/Me の場合は Norton AntiVirus のインストール後にコンピュータを再起動してください。

Norton AntiVirus のインストール後にコンピュータを再起動する必要がある場合にはすぐにそのオプションを選択できるメッセージが表示されます。再起動後、またはコンピュータの再起動が不要の場合にはインストールの完了後に情報ウィザードが表示されます。

## コンピュータの再起動

インストール後、更新内容を有効にするためにコンピュータの再起動を要求するメッセージが表示されることがあります。

コンピュータを再起動するには

- ❖ ダイアログボックスで [はい (Y)] をクリックします。  
 [いいえ (N)] をクリックした場合、Norton AntiVirus の設定はコンピュータを再起動するまで完了しません。

## 情報ウィザードの使い方

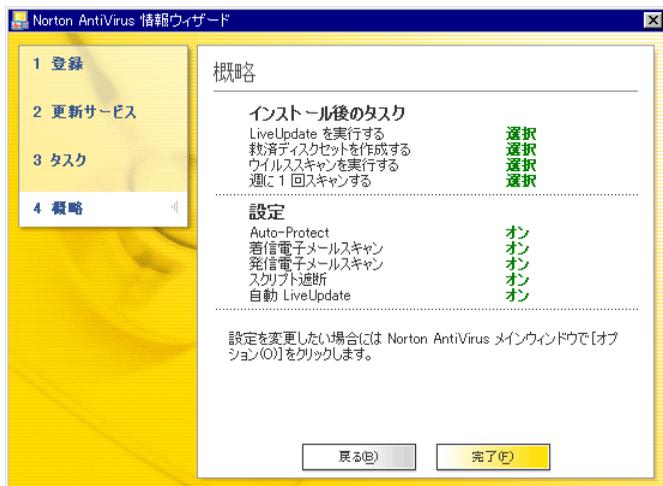
情報ウィザードではウイルス定義ファイルの更新サービスについての情報の表示、インストール後の自動実行タスクの選択、Norton AntiVirus 設定の見直しができます。

情報ウィザードを使うには

- 1 ようこそウィンドウで [次へ (N)] をクリックします。
- 2 Norton AntiVirus が最初からインストールされているコンピュータを購入した場合、Norton AntiVirus を使うにはライセンス契約を受け入れる必要があります。[ライセンス契約に同意します (A)] を選択してから [次へ (N)] をクリックします。
- 3 更新サービス情報を見直してから [次へ (N)] をクリックします。
- 4 Norton AntiVirus で自動的に実行したいインストール後のタスクを選択します。次のタスクがあります。

LiveUpdate を実行して最新のウイルス定義ファイルがあることを確認する。	「第5章 LiveUpdate による最新の保護体制の維持」を参照してください。
Windows 98/Me の場合、救済ディスクセットを作成する。	p.3-4 の「救済ディスクセットについて」を参照してください。
システムの完全スキャンを実行する。	p.4-3 の「ディスク、フォルダ、ファイルの手動スキャン」を参照してください。
ローカルハードディスクドライブを週単位でスキャンするようにスケジュール設定する。これには Microsoft タスクスケジューラがインストールされている必要があります。このタスクを選択した場合、希望に応じてこのスキャンのスケジュールを変更できます。	p.4-7 の「スキャンのスケジュール設定」を参照してください。

- 5 [次へ(N)] をクリックします。



p.3-8の「Norton AntiVirus のカスタマイズ」を参照してください。

- 6 Norton AntiVirus の設定を見直します。  
いずれかの設定を変更したい場合にはオプションを使って変更します。
- 7 [完了 (F)] をクリックします。

インストール後のタスクを選択した場合、そのタスクが自動的に始まりません。

## README.TXT ファイルを読む

README.TXT ファイルにはこのマニュアルに載っていない製品変更についての情報と技術的なヒントが書かれています。このファイルはハードディスク上の Norton AntiVirus 製品ファイルと同じ場所にインストールされます。

### README.TXT ファイルを読むには

- 1 Windows エクスプローラを使って Norton AntiVirus ファイルがインストールされている場所へ移動します。  
デフォルトの場所に Norton AntiVirus をインストールした場合、ファイルは C:\Program Files\Norton AntiVirus にあります。
- 2 [Readme.txt] をダブルクリックしてメモ帳またはワードパッドでファイルを開きます。  
README.TXT ファイルは希望する場合に印刷できます。
- 3 ファイルを読み終わったらメモ帳またはワードパッドを閉じます。

# Norton AntiVirus のアンインストール

コンピュータから Norton AntiVirus を削除する必要がある場合には Windows のコントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] (Windows XP では [プログラムの追加と削除]) または [プログラム (P)] メニューの [Norton AntiVirus 2003 のアンインストール] を使います。



アンインストール中、Windows は「インストールの準備中」と表示することがあります。これは一般的な Microsoft インストーラメッセージで無視できます。

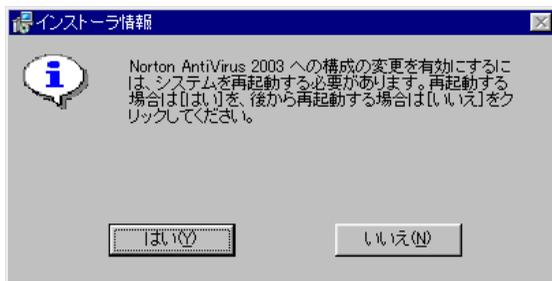
## Windows のコントロールパネルから Norton AntiVirus をアンインストールするには

- 1 次のいずれかの操作をします。
  - Windows のスタートメニューで [設定 (S)]、[コントロールパネル (C)] の順に選択します。
  - Windows XP のタスクバーで [スタート]、[コントロールパネル (C)] の順に選択します。
- 2 コントロールパネルで [アプリケーションの追加と削除] (Windows XP では [プログラムの追加と削除]) をダブルクリックします。
- 3 現在インストールされているプログラムのリストで [Norton AntiVirus] を選択します。
- 4 次のいずれかの操作をします。
  - Windows Me では [削除 (R)] をクリックします。
  - Windows 98 では [追加と削除 (R)] をクリックします。
  - Windows 2000/XP では [変更 (C)] をクリックします。
- 5 製品をアンインストールしたいことを確認するために [削除] をクリックします。
- 6 **検疫**にファイルがある場合にはそのファイルを削除したいかどうかの確認メッセージが表示されます。次のオプションがあります。

p.6-7 の「**検疫にファイルがある場合**」を参照してください。

[はい (Y)]	コンピュータから検疫ファイルを削除します。
[いいえ (N)]	検疫ファイルをコンピュータ上に残しますが、ファイルはアクセス不能になります。

- 7 [終了(F)] をクリックします。



- 8 コンピュータを再起動するために [はい(Y)] をクリックします。

[プログラム(P)] メニューから Norton AntiVirus をアンインストールするには

- 次のいずれかの操作をします。
  - Windows のスタートメニューで [プログラム(P)]、[Norton AntiVirus] の順に選択します。
  - Windows XP のタスクバーで [スタート]、[すべてのプログラム(P)]、[Norton AntiVirus] の順に選択します。
- [Norton AntiVirus 2003 のアンインストール] を選択します。
- アプリケーションメンテナンスウィンドウで [削除(R)] をクリックします。

他のシマンテック製品がコンピュータ上にない場合には LiveReg と LiveUpdate もアンインストールしてください。

LiveReg と LiveUpdate をアンインストールするには

- 次のいずれかの操作をします。
  - Windows のスタートメニューで [設定(S)]、[コントロールパネル(C)] の順に選択します。
  - Windows XP のタスクバーで [スタート]、[コントロールパネル(C)] の順に選択します。
- コントロールパネルで [アプリケーションの追加と削除] (Windows XP では [プログラムの追加と削除]) をダブルクリックします。
- 現在インストールされているプログラムのリストで [LiveReg] を選択します。
- 次のいずれかの操作をします。
  - Windows Me では [削除(R)] をクリックします。
  - Windows 98 では [追加と削除(R)] をクリックします。

- Windows 2000/XP では [変更 (C)] をクリックします。
- 5 製品をアンインストールしたいことを確認するために [削除] をクリックします。
  - 6 ステップ 1 ～ 5 を繰り返し、ステップ 3 で LiveUpdate を選択してアンインストールします。



# Norton AntiVirus の 基本

# 3

この章では、Norton AntiVirus ツールへのアクセス、コンピュータの保護体制の維持、Norton AntiVirus のカスタマイズ、Norton AntiVirus 活動の監視、詳しい情報の表示について説明します。

## Norton AntiVirus ツールへのアクセス

Norton AntiVirus ツールには状態レポート、スキャンオプション、スケジュール設定オプション、活動レポート、設定オプションがあります。このツールには Norton AntiVirus メインウィンドウ、Windows エクスプローラのツールバー、Windows トレーの Norton AntiVirus アイコンからアクセスできます。

## Norton AntiVirus メインウィンドウの使い方

ほとんどの Norton AntiVirus ツールは Norton AntiVirus メインウィンドウから利用できます。

**Norton AntiVirus を起動するには**

- ❖ 次のいずれかの操作をします。
  - Windows のスタートメニューで [プログラム (P)]、[Norton AntiVirus]、[Norton AntiVirus 2003] の順に選択します。
  - Windows XP のタスクバーで [スタート]、[すべてのプログラム]、[Norton AntiVirus]、[Norton AntiVirus 2003] の順に選択します。

## Windows エクスプローラのツールバーの使い方

Windows エクスプローラに Norton AntiVirus のボタンとメニューが追加されます。このボタンをクリックすると Norton AntiVirus の簡易ドロップダウンメニューが表示されます。

ボタンの右側にある矢印をクリックすると次のオプションが表示されます。

[状態の表示 (S)]	Norton AntiVirus を起動してシステム状態ペインを表示します。
[検疫の表示 (Q)]	検疫領域とそこに現在格納されているファイルを表示します。詳しくは p.6-7 の「 <a href="#">検疫にファイルがある場合</a> 」を参照してください。
[活動ログの表示 (L)]	ログビューアを表示して、実行したスキャンや見つかった問題など、各種の Norton AntiVirus 活動を示します。詳しくは p.3-13 の「 <a href="#">Norton AntiVirus 活動の監視</a> 」を参照してください。
[ウイルス辞典を表示 (V)]	シマンテック・セキュリティ・レスポンスの Web ページに接続します。そこですべての種類のウイルスについての情報を検索できます。
[スキャンメニューを表示 (N)]	Norton AntiVirus のウイルススキャンペインを開きます。そこでは実行するスキャンを指定できます。

Norton AntiVirus のインストール後に最初に Windows エクスプローラを開いたとき、Norton AntiVirus のボタンとメニューが表示されないことがあります。

### Norton AntiVirus のボタンとメニューを表示するには

- ❖ 表示メニューで [ツールバー (T)]、[Norton AntiVirus] の順に選択します。



コンピュータの設定によっては Windows エクスプローラの Norton AntiVirus メニューにアクセスできないことがあります。

## Windows トレーの Norton AntiVirus アイコンの使い方

p.3-8 の「[Norton AntiVirus のカスタマイズ](#)」を参照してください。

Windows トレーの Norton AntiVirus [アイコン](#)を使って Norton AntiVirus を開き、Auto-Protect の有効、無効を切り替えることができます。

### Windows トレーの Norton AntiVirus アイコンを使うには

- 1 Windows トレーの Norton AntiVirus アイコンを右クリックします。
- 2 トレーアイコンのメニューで必要なオプションを選択します。

# Auto-Protectを一時的に無効にする

p.3-8の「Norton AntiVirusのカスタマイズ」を参照してください。

デフォルトのオプション設定を変更していなければ、コンピュータの起動時にAuto-Protectがロードされてコンピュータはウイルスから保護されます。Auto-Protectは実行するプログラムでウイルスの有無を調べ、ウイルスの存在を示す可能性のある活動をコンピュータで監視します。ウイルスまたは**ウイルスらしい活動**が検出されるとAuto-Protectは警告を表示します。

場合によってはウイルスの働きでないことがわかっているウイルスらしい活動についてAuto-Protectの警告が表示されることがあります。このような操作中に警告を避けたい場合にはAuto-Protectを一時的に無効にできます。



オプションに**パスワード**を設定した場合、設定を表示または調整するにはその前にパスワードを入力するように要求されます。

p.3-1の「Norton AntiVirus ツールへのアクセス」を参照してください。

## Auto-Protectを一時的に無効にするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [システム] で [Auto-Protect] をクリックします。
- 4 Auto-Protect ペインで [Auto-Protect を有効にする (E)(推奨)] のチェックマークをはずします。

必要な操作が完了したら、コンピュータを保護するため必ず Auto-Protect を有効にしてください。

## Auto-Protectを有効にするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [システム] で [Auto-Protect] をクリックします。
- 4 Auto-Protect ペインで [Auto-Protect を有効にする (E)(推奨)] にチェックマークを付けます。

Norton AntiVirus **アイコン**がWindows トレーに表示される場合にはそのアイコンを使ってAuto-Protectの有効、無効を切り替えることができます。

## トレーアイコンを使ってAuto-Protectを有効または無効にするには

- 1 Windows トレーのNorton AntiVirus アイコンを右クリックします。

- 2 次のいずれかの操作をします。
  - Auto-Protectが有効の場合には[Auto-Protectを無効にする(D)]を選択します。
  - Auto-Protectが無効の場合には[Auto-Protectを有効にする(E)]を選択します。

## Norton AntiVirus 保護の維持

p.6-9の「救済ディスクセットを使う必要がある場合 (Windows 98/98SE/Me)」を参照してください。

使っているオペレーティングシステムによっては利用できる救済ディスクセットを最新の状態に保つ必要があります。場合によっては Norton AntiVirus の保護設定が最適であり、さらにウイルス定義ファイルが最新であることを確認する必要があります。

### 救済ディスクセットについて

救済ディスクセットはシステムの起動ファイルとディスクのパーティション情報の複製セットを記録します。救済ディスクセットを用意しておけば、予期しない問題が起きてでも処理できます。救済ディスクセットは Windows 98/Me の場合に作成できます。

p.6-9の「救済ディスクセットを使う必要がある場合 (Windows 98/98SE/Me)」を参照してください。

救済ディスクセットは1枚のブート可能フロッピーディスクと追加のフロッピーディスク (Norton AntiVirus プログラムに1枚、ウイルス定義ファイルに数枚) で構成されます。Norton Utilities をインストールしてある場合にはもう1枚追加されます。救済ディスクセットを使うとコンピュータをDOSモードで起動し、Norton AntiVirus を使ってウイルス関連の問題を解決できます。



救済ディスクセットにはそれを作成したコンピュータ専用の情報が入っています。救済ディスクセットを使って回復する場合にはそのコンピュータ用に作成したディスクセットを使ってください。救済ディスクセットを使ってウイルススキャンする場合には異なるコンピュータ用に作成したディスクセットを使えます。

p.6-9の「救済ディスクセットを使う必要がある場合 (Windows 98/98SE/Me)」を参照してください。

救済ディスクセットはいつでも更新できますが、ウイルス定義ファイルの更新、新しいソフトウェアのインストール、ハードウェアの変更をしたときには必ず更新してください。

### 救済ディスクセットの作成

救済ディスクセットはいつでも作成できます。情報ウィザードでインストール後のタスクとして救済ディスクセットの作成を選択した場合に

は Rescue Disk が自動的に表示されます。そうでない場合には Norton AntiVirus メインウィンドウで Rescue Disk を起動することができます。

p.3-3 の「Auto-Protect を一時的に無効にする」を参照してください。

Norton AntiVirus メインウィンドウで Rescue Disk を起動した場合、救済ディスクセットの作成中は Auto-Protect を一時的に無効にします。救済ディスクセットの作成後にコンピュータを再起動しない場合には忘れずに Auto-Protect を再び有効にしてください。



フロッピーディスクの救済ディスクセットを作成する場合には空の(または消去していい) 1.44MB のフロッピーディスクを数枚用意する必要があります。



救済ディスクセットの作成場所としてフロッピーディスク以外(ネットワークドライブ、2 台目の物理ハードディスク、その他の大容量ディスクドライブ)を選択する場合、選択したディスク上のフォルダに救済ディスクセットが格納されます。ブート可能なフロッピーディスクを安全な場所に保管してください。このディスクはネットワークドライブまたはコンピュータを起動して救済ディスクセットがあるドライブにアクセスするために必要な他のファイルを格納するディスクです。救済ディスクセットを1台目のハードディスクドライブ、つまり起動しているドライブに作成することは避けてください。

#### 救済ディスクセットを作成するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [Rescue] をクリックします。救済ディスクセットの作成をインストール後のタスクとして選択した場合には Rescue Disk が自動的に開きます。
- 3 救済ディスクセットの作成に使いたいドライブを選択します。フロッピーディスクセットを作成するにはフロッピーディスクドライブを選択します。
- 4 [作成 (R)] をクリックします。
- 5 基本救済ディスクリストのウィンドウに指定されている枚数のディスクにラベルを貼ってから [OK] をクリックします。
- 6 要求に応じてディスクを挿入します。

## 救済ディスクセットのテスト

救済ディスクセットの作成処理の最後にディスクセットのテストを要求するメッセージが表示されます。テストでは救済ディスクセットを使ってコンピュータを再起動する必要があります。

p.7-2の「救済ブートディスクが動きません」を参照してください。

### 救済ディスクセットをテストするには

- 1 開いているすべてのWindowsプログラムを閉じます。
- 2 基本救済ブートフロッピーディスクというラベルが貼ってあるディスクをフロッピーディスクドライブに挿入してから [再起動(R)] をクリックします。  
画面に Rescue Disk のウィンドウが表示されれば救済ブートディスクは正しく動きます。表示されない場合には問題を解決します。
- 3 Esc キーを押してDOSに移ります。
- 4 フロッピーディスクドライブからディスクを取り出します。
- 5 コンピュータを再起動します。

## 救済ディスクセットの更新

救済ディスクセットは好きなときに何回でも更新できます。新しく作成し直さなくても Rescue Disk の更新機能を使えば既存の救済ディスクセットを更新できます。

フロッピーディスクセットを更新する場合には始める前にディスクの書き込み禁止を解除してあることを確認してください。

### 救済ディスクセットを更新するには

- 1 Norton AntiVirus メインウィンドウで [Rescue] をクリックします。
- 2 [保存先ドライブの選択] でフロッピーディスクドライブを選択します。
- 3 [更新(U)] をクリックします。
- 4 基本救済ブートフロッピーディスクというラベルが貼ってあるディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 要求に応じてディスクセットの残りのディスクを挿入します。

p.3-5の「救済ディスクセットのテスト」を参照してください。

メッセージが表示されたら新しく更新した救済ディスクセットをテストしてください。

## システム状態の確認

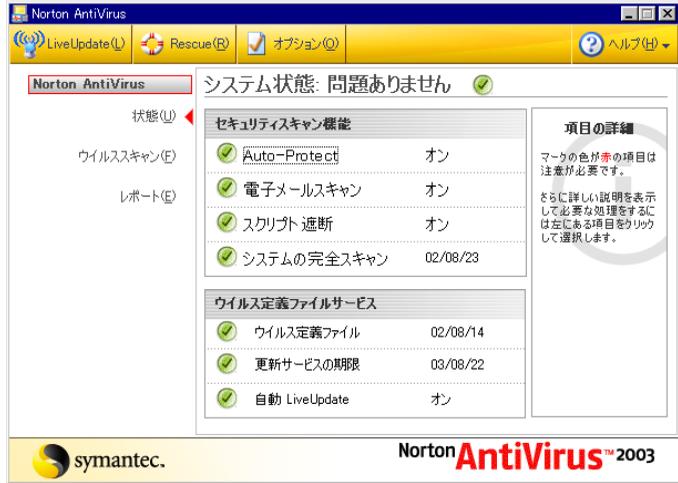
Norton AntiVirus が予想外に動作している場合またはすべてがウイルススキャンされているかどうかわからない場合にはその設定状態を調べます。

コンピュータの状態は Norton AntiVirus メインウィンドウに表示されます。システムの状態に問題がなければ緑のチェックマークが表示され、システムに注意が必要であれば黄色の三角形が表示されます。システムに注意が必要な場合は機能とサービスを見直してどの部分で注意が必要かを確認してください。

設定を調整する必要がある場合にはオプションを使います。

### システム状態を確認するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。



- 2 システム状態ペインで各機能の左側に表示される状態を見直します。
- 3 特定の機能についての詳しい情報を表示するにはその機能をクリックします。  
機能の説明と詳しい情報へのリンクが右ペインに表示されます。

## Office プラグイン状態の確認

Office プラグインはウイルス、ワーム、ウイルスらしい活動から Microsoft Office のデータファイルを保護します。Office プログラムで開くデータファイルは必ずスキャンされます。Office プラグインが有効になっているかどうかはオプションウィンドウで確認します。



オプションにパスワードを設定した場合、設定を表示または調整するにはその前にパスワードを入力するように要求されます。

p.3-8 の「Norton AntiVirus のカスタマイズ」を参照してください。

p.3-1 の「Norton AntiVirus ツールへのアクセス」を参照してください。

p.3-1 の「Norton AntiVirus ツールへのアクセス」を参照してください。

#### Office プラグイン状態を確認するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの左ペインの [その他] で [その他] をクリックします。
- 4 Office プラグインが有効になっていることを確認します。

## Norton AntiVirus のカスタマイズ

Windows 2000/XP を使っている場合、管理者権限を持つアカウントでログオンしていないと Norton AntiVirus オプションの変更はできません。管理者が他のユーザーとコンピュータを共有する場合、加えた変更は共有コンピュータを使う全員に適用されるので注意してください。

Norton AntiVirus のデフォルト設定はコンピュータをウイルスから完全に保護する働きがあります。ただし、システムの処理効率を最適化した適用しないオプションを無効にするためにデフォルト設定を調整したいことがあります。

Norton AntiVirus にはオプション設定のパスワード保護の働きがあります。権限のないユーザーが設定を改ざんできないようにパスワードを有効にして、そのパスワードの変更やリセットができます。

すべてのオプション設定が3つの主要カテゴリに分類されます。各カテゴリのオプションは次のとおりです。

カテゴリ	オプション
[システム]	[Auto-Protect] ■ [Bloodhound] ■ [拡張] ■ [除外] [スクリプト遮断] [手動スキャン] ■ [Bloodhound] ■ [除外]

カテゴリ	オプション
[インターネット]	[電子メール] ■ [拡張] [インスタントメッセージ] [LiveUpdate]
[その他]	[予防接種] (Windows 98/98SE/Me) [その他]

p.3-11の「オプションの変更」を参照してください。

ここでは個々のオプションの変更方法については説明しませんが、その内容をカテゴリ別に概説します。オプションの具体的な説明についてはヘルプを参照してください。

## システムオプションについて

システムオプションはコンピュータのスキャンと監視を制御します。このオプションはスキャンする対象、スキャンで検索するファイルの種類、ウイルスまたはウイルスらしい活動が見つかったときの処理を決定するために使います。

保護レベルをより高くするとコンピュータの処理効率がやや低下することがあります。Norton AntiVirus をインストールした後でコンピュータの処理効率の違いに気付く場合には低い保護レベルを設定するか、または不要なオプションを無効にする必要があります。

オプション	説明
[Auto-Protect]	<p>コンピュータの起動時に Auto-Protect を起動するかどうか、コンピュータの監視で検索するファイル、ウイルスが見つかったときの処理を決定します。</p> <p>Bloodhound は未知のウイルスから保護するためのスキャン技術です。Bloodhound オプションは Auto-Protect での Bloodhound の感度レベルを設定するために使います。</p> <p>拡張オプションはウイルスらしい活動のスキャン時とフロッピーディスクのスキャン時に監視する活動を決定します。</p> <p>除外はスキャンする必要のないファイルをファイル拡張子または特定のファイル名によって指定します。マクロファイルまたは実行可能ファイルなど、ウイルスに感染しそうなファイルの種類は除外しないように注意してください。</p>

オプション	説明
[スクリプト遮断]	スクリプト遮断を有効にし、悪質なスクリプトが見つかったときの Norton AntiVirus の処理を設定します。スクリプトを開発またはデバッグする場合にはスクリプト遮断を無効にしてください。そうしないところの機能が開発中のスクリプトを遮断する可能性があります。
[手動スキャン]	スキャンする対象と指定したスキャン中にウイルスが見つかったときにどうするかを決定します。 手動スキャンオプションにも [Bloodhound] と [除外] のサブカテゴリがあります。

## インターネットオプションについて

インターネットオプションはコンピュータがインターネットに接続している場合にどうするかを定義します。インターネットオプションを使って Norton AntiVirus が電子メールとインスタントメッセージの添付ファイルをどうスキャンするかを定義し、ワーム遮断を有効にし、LiveUpdate をどう適用するかを定義します。

オプション	説明
[電子メール]	電子メールスキャンとワーム遮断を有効にし、電子メールメッセージのスキャン中に Norton AntiVirus がどう動作するかを定義します。着信電子メールのスキャンは他人が送信したウイルスからコンピュータを保護します。発信電子メールのスキャンはうっかりウイルスまたはワームを他人に送信することを防止します。着信電子メールと発信電子メールのいずれか一方または両方をスキャンするように選択したり、スキャン中にアイコンまたは進行インジケータを表示するように選択したりできます。感染電子メールをユーザーとの対話なしで自動的にまたはユーザーとの対話によって修復、検疫、削除するようにオプションを設定できます。 拡張オプションは電子メールのスキャン時の処理を決定します。

オプション	説明
[インスタントメッセージング]	どのインスタントメッセージングをサポートするか、新しいインスタントメッセージングをどう設定するか、インスタントメッセージングセッション中にウイルスが見つかった場合にどうするかを決定します。
[LiveUpdate]	自動 LiveUpdate を有効にし、更新版をどう適用するかを定義します。自動 LiveUpdate はインターネット接続時にウイルス定義ファイルとプログラムの更新版の有無を自動的に調べます。

## その他オプションについて

その他オプションには予防接種の設定 (Windows 98/98SE/Me のみ) とその他の設定があります。予防接種を有効にしてシステムファイルの変更時に警告を表示したり、いろいろなその他オプションを設定したりできます。

オプション	説明
[予防接種]	予防接種を有効にし、システムファイルの変更がある場合に予防接種スナップショットを更新するか、または元の値に復元してファイルを修復するかを選択します。 予防接種オプションは Windows 98/98SE/Me のみで利用できます。
[その他]	[ファイルの修復前に検疫にバックアップを作成 (B)] (このオプションは自動的にオンに設定されます。) [Office プラグインを有効にする (O)] (Norton AntiVirus のインストール後に Office 2000 以上にアップグレードした場合、このオプションを有効にして Office のファイルを自動的にスキャンする必要があります。) [ウイルス定義ファイルが最新でなければ警告する (A)] [起動時にシステムファイルをスキャンする (Y)] (Windows 98/98SE のみ) [オプションのパスワード保護を有効にする (E)]

## オプションの変更

Norton AntiVirus オプションの設定はオプションウィンドウで変更できます。

p.3-1の「Norton AntiVirus ツールへのアクセス」を参照してください。

### 設定を変更するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。



オプションにパスワードを設定した場合、先に進むにはその前にパスワードを入力するように要求されます。



- 3 オプションウィンドウの左ペインのリストでオプションをクリックします。  
左側に矢印があるオプションには下位のオプションがあります。オプション項目をクリックするとそのオプションに対応する設定が右ペインに表示されます。
- 4 変更したい設定を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。  
この時点でこれらの設定は事前設定のオプションよりも優先されます。変更はすぐに有効になります。

p.3-8の「Norton AntiVirus のカスタマイズ」を参照してください。

## オプションをデフォルト設定に戻す

表示されているオプションの一部または全部を変更できます。いくつも変更を加えて不要な結果になった場合にはすべてのオプションをデフォルト設定に戻せます。



オプションにパスワードを設定した場合、設定を表示または調整するにはその前にパスワードを入力するように要求されます。

**オプションページ上でデフォルト 設定に戻すには**

- ❖ デフォルト設定に戻したいページ上で [ページデフォルト] をクリックします。

**すべてのオプションについてデフォルト 設定に戻すには**

- ❖ オプションウィンドウのいずれかのページで [すべてデフォルト] をクリックします。

## オプションのパスワード保護

オプション設定のパスワード保護の有効、無効を選択できます。パスワードを指定した場合、オプションウィンドウを表示したり一時的に Auto-Protect の有効、無効を切り替えたりするときに毎回パスワードの入力が要求されます。

パスワードを忘れた場合、Norton AntiVirus メインウィンドウで [ヘルプ (H)] ボタンをクリックしてからパスワードをリセットできます。

**パスワードを指定または解除するには**

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [その他] で [その他] をクリックします。
- 4 [オプションのパスワード保護を有効にする (E)] にチェックマークを付けるかはずします。
- 5 パスワードのダイアログボックスでパスワードを入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

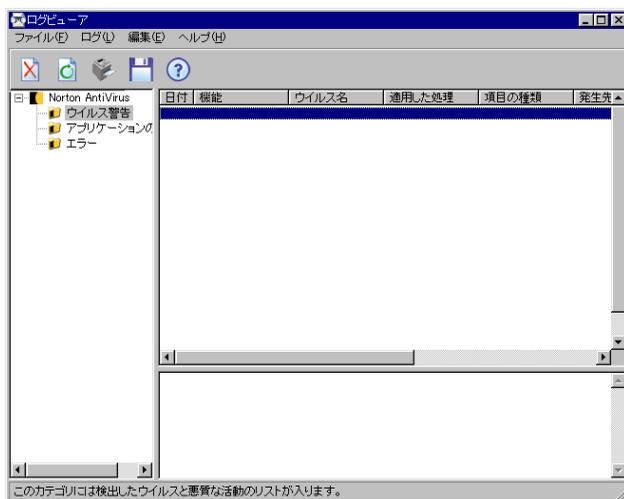
## Norton AntiVirus 活動の監視

場合によっては以前の Norton AntiVirus 活動を調べて、前回のシステムスキャン実行日時や先週の検出ウイルス数などを確認することが必要になるかもしれません。Norton AntiVirus はウイルス警告、アプリケーションの活動、エラーの記録を活動 [ログ](#) に維持します。

Norton AntiVirus が実行したタスクとその結果を調べるために活動ログを見て、特定のニーズに合わせた正しいオプション設定になっていることを確認してください。

#### 活動を確認するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [レポート (E)] をクリックします。
- 3 レポートペインの活動ログの行で [レポートを表示 (W)] をクリックします。



- 4 左ペインで見直したいログを選択します。  
ログを選択するたびに右ペインが切り替わってそのログに固有の情報が表示されます。最新の活動がログの最上部に表示されます。

## 詳しい情報

Norton AntiVirus には用語集、ヘルプ、PDF 形式の『ユーザーズガイド』、Web 上のチュートリアル、シマンテック社のナレッジベースへのリンクが用意されています。

### 用語集の参照

PDF 形式の『ユーザーズガイド』で青色で表記された用語は用語集にその定義があります。用語集は『ユーザーズガイド』とヘルプの両方で利

用できます。いずれの場合も用語をクリックするとその定義が表示されます。

## ヘルプの使い方

ヘルプはNorton AntiVirusでいつでも利用できます。ヘルプのボタンまたは詳しい情報へのリンクを使うと完了するタスクに固有の情報が表示されます。ヘルプメニューには製品のすべての機能と完了可能なタスクに対する総合的なガイドが用意されています。

ヘルプメニューにアクセスするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウ上部にある [ヘルプ (H)] をクリックします。



- 3 メインヘルプメニューで [Norton AntiVirus ヘルプ (V)] を選択します。
- 4 ヘルプウィンドウの左ペインでページを表示します。次の選択肢があります。

[目次 (C)]	ヘルプをトピック別に表示します。
[キーワード (N)]	ヘルプトピックのリストをキーワードで文字コード順に表示します。
[検索 (S)]	語句を入力する検索フィールドを開きます。

## Norton AntiVirus ダイアログボックスのヘルプ

Norton AntiVirus ダイアログボックスで作業中に要求したときに表示されるヘルプはそのダイアログボックス専用です。

Norton AntiVirus ダイアログボックスのヘルプを表示するには

- ❖ ダイアログボックスで [ヘルプ] をクリックします。

## 特定のタスクのヘルプ

ヘルプは Norton AntiVirus プログラムの操作手順も説明します。操作手順のヘルプトピックにはメインヘルプウィンドウからアクセスできます。

タスクのヘルプを表示するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [ヘルプ (H)] をクリックします。
- 3 メインヘルプメニューで [Norton AntiVirus ヘルプ (V)] を選択します。
- 4 ヘルプウィンドウの左ペインで次のいずれかのページを表示します。

[目次 (C)]	ヘルプをトピックで検索します。
[キーワード (N)]	ヘルプトピックのリストをキーワードで文字コード順に表示します。
[検索 (S)]	キーワードを入力してヘルプを検索します。

[目次 (C)] ページ、[キーワード (N)] ページ、[検索 (S)] ページは他の多くのヘルプウィンドウでも利用でき、ヘルプの検索にいつでも使えます。

## 『ユーザーズガイド』の使い方

『ユーザーズガイド』は Norton AntiVirus CD 上に PDF 形式で提供されます。PDF 形式の『ユーザーズガイド』を読むには Adobe Acrobat Reader をコンピュータにインストールしておく必要があります。

Adobe Acrobat Reader をインストールするには

- 1 Norton AntiVirus CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 [CD の参照 (B)] をクリックします。
- 3 Manual フォルダをダブルクリックします。
- 4 Acrobat フォルダをダブルクリックします。
- 5 ar505jpn.exe をダブルクリックします。
- 6 画面の指示に従い、Adobe Acrobat Reader のフォルダを選択してインストールを完了します。

Adobe Acrobat Reader をインストールしたら CD から PDF 形式の『ユーザーズガイド』を読むことができます。

**CD から PDF 形式の『ユーザーズガイド』を読むには**

- 1 Norton AntiVirus CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 [CD の参照 (B)] をクリックします。
- 3 Manual フォルダをダブルクリックします。
- 4 NAV\_2003.PDF のアイコンをダブルクリックします。

『ユーザーズガイド』はハードディスクにコピーしてそこから読むこともできます。約 1MB のディスク容量が必要です。

**ハードディスクから『ユーザーズガイド』を読むには**

- 1 コピーした PDF が入っている場所を開きます。
- 2 NAV\_2003.PDF のアイコンをダブルクリックします。

## Web 上の Norton AntiVirus について

シマンテック社の Web サイトは Norton AntiVirus、ウイルス定義ファイル、ウイルス対策技術、その他のシマンテック製品について豊富な情報を提供します。シマンテック社の Web サイトにアクセスするには以下のような方法があります。

**Norton AntiVirus メインウィンドウからシマンテック社の Web サイトにアクセスするには**

- 1 [ヘルプ (H)] をクリックします。
- 2 必要な解決策として次のいずれかを選択します。

[ヘルプとサポート (T)]	シマンテック社の Web サイトのテクニカルサポートページに移動します。特定の問題に対する解決策を検索したり、ウイルス定義ファイルを更新したり、ウイルス対策技術についての最新情報を読んだりできます。
[シマンテックレスポンスセンター (N)]	シマンテック社の Web サイトのシマンテック・セキュリティ・レスポンスページに移動します。latest virus threats (最新のウイルス) の情報やセキュリティアップデートを入手できます。

Norton AntiVirus のレポートペインにはオンラインウイルス辞典へのリンクがあります。

レポート ペインからシマンテック社の Web サイトにアクセスするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [レポート (E)] をクリックします。
- 3 レポートペインで [オンラインウイルス辞典] の横にある [レポートを表示 (I)] をクリックします。

シマンテック社の Web サイトへのリンクが Windows エクスプローラの ツールバーにあります。

Windows エクスプローラからシマンテック社の Web サイトにアクセスするには

- 1 Windows エクスプローラを開きます。
- 2 ツールバーの Norton AntiVirus メニューで [ウイルス辞典を表示 (V)] を選択します。  
このオプションはシマンテック・セキュリティ・レスポンスの Web ページに接続します。そこですべての種類のウイルスについての情報を検索できます。

インターネット **ブラウザ** でシマンテック社の Web サイトにいつでもアクセスできます。

ブラウザでシマンテック社の Web サイトにアクセスするには

- ❖ シマンテック社の Web サイト (<http://www.symantec.co.jp/>) を参照します。

# ウイルスからのコンピュータの保護

# 4

コンピュータをウイルスから守るには、Auto-Protect、スクリプト遮断、ワーム遮断による定期的な監視、電子メールの添付ファイルとインスタントメッセージャーによって転送されるファイルのスキャン、頻繁なシステムスキャンが必要です。これらのタスクは自動的に実行するように設定できます。

Windows 98/98SE/Me で Norton AntiVirus の追加の保護として予防接種を有効にするとシステムファイルの変更時に警告が表示されます。

## 保護設定の確認

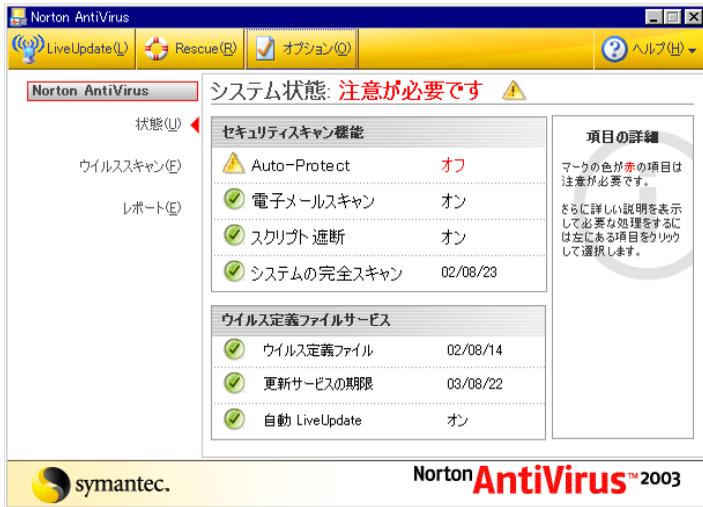
Norton AntiVirusをインストールしてコンピュータを再起動するとAuto-Protect がオンになります。Auto-Protect はユーザーの作業中にバックグラウンドで動作してウイルスまたは有害なコードの侵入を自動的に監視し、ウイルスが見つかったら警告を表示します。Auto-Protect が働いているかどうかはNorton AntiVirusのメインウィンドウまたはシステムトレイのアイコンを見れば確認できます。コンピュータを最大限に保護するには、次の表に従ってコンピュータの起動時にAuto-Protectなどの保護機能が有効になっていることを確認してください。

この表では保護を最大限にする設定とその手順の概略を示します。オプションについて詳しくはヘルプを参照してください。

機能	設定の手順	最大限の保護にする設定
Auto-Protect	Norton AntiVirus メインウィンドウで [有効にする] をクリックします。 p.3-9 の「システムオプションについて」を参照してください。	Auto-Protect をオンに設定します。
電子メールスキャン	[オプション (O)]、[電子メール] の順にクリックします。 p.3-10 の「インターネットオプションについて」を参照してください。	[着信電子メールをスキャン(E)(推奨)] と [発信電子メールをスキャン(O)(推奨)] にチェックマークを付けます。 サポートされる通信プロトコルの1つを電子メールプログラムが使う場合にはデフォルトで両方のオプションが選択されます。
時間切れ保護	[オプション (O)]、[電子メール]、[拡張] の順にクリックします。 p.3-10 の「インターネットオプションについて」を参照してください。	[時間切れに対して保護する(P)(推奨)] にチェックマークを付けます。 大きい添付ファイルの受信中に接続の時間切れを防止するには、時間切れ保護を有効にします。
インスタントメッセージのスキャン	[オプション(O)]、[インスタントメッセージ] の順にクリックします。 p.3-10 の「インターネットオプションについて」を参照してください。	保護したいインスタントメッセージにチェックマークを付けます。
ワーム遮断	[オプション (O)]、[電子メール] の順にクリックします。 p.3-10 の「インターネットオプションについて」を参照してください。	[ワーム遮断を有効にする(W)(推奨)] と [電子メールの添付ファイルのスキャン時に警告する(L)] にチェックマークを付けます。
スクリプト遮断	[オプション(O)]、[スクリプト遮断] の順にクリックします。 p.3-9 の「システムオプションについて」を参照してください。	[スクリプト遮断を有効にする(E)(推奨)] にチェックマークを付けます。

機能	設定の手順	最大限の保護にする設定
予防接種	[オプション(O)]、[予防接種]の順にクリックします。 p.3-11の「 <b>その他オプションについて</b> 」を参照してください。	[ブートレコードに予防接種をする(I)(推奨)]にチェックマークを付けます。

## ディスク、フォルダ、ファイルの手動スキャン



Auto-Protect が有効で Norton AntiVirus オプションがデフォルトレベルに設定されている場合、通常は手動スキャンは必要ありません。ただし、たとえば、Norton AntiVirus と競合する別のプログラムをロードして使うために Auto-Protect を一時的に無効にした場合、有効な状態に戻すのを忘れると、ハードディスクがウイルスに感染してもウイルスが検出されない可能性があります。その場合はコンピュータ全体をスキャンすることも、個々のフロッピーディスク、ドライブ、フォルダ、ファイルをスキャンすることもできます。

通常は手動スキャンのデフォルト設定で十分ですが、オプションウィンドウで Bloodhound ウイルス検出技術のレベルを上げたり手動スキャン

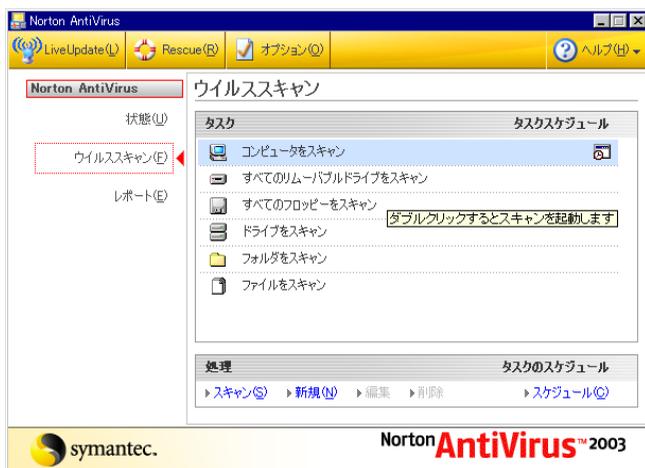
のオプションを調整したりできます。手動スキャンオプションについて詳しくはヘルプを参照してください。

## システムの完全スキャンの実行

システムの完全スキャンはコンピュータ上のすべての**ブートレコード**とファイルをスキャンします。

システムの完全スキャンを実行するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [ウイルススキャン (F)] をクリックします。



- 3 ウイルススキャンペインで [コンピュータをスキャン] をクリックします。
- 4 [処理] で [スキャン (S)] をクリックします。  
スキャンが完了するとスキャンの概略が表示されます。
- 5 概略の見直しが終わったら [完了] をクリックします。

## 個々の要素のスキャン

場合によっては特定のファイル、リムーバブルドライブ、フロッピーディスク、コンピュータの任意のドライブ、コンピュータ上の任意のフォルダまたはファイルを個々にスキャンすることが必要になります。フロッピーディスクで作業したときや電子メールメッセージで圧縮

ファイルを受信したときはウイルス感染の疑いがあります。検査したい特定のディスクまたは個々の要素のみをスキャンできます。

### 個々の要素をスキャンするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [ウイルススキャン (F)] をクリックします。
- 3 ウイルススキャンペインで実行したいスキャンを選択します。
- 4 [処理] で [スキャン (S)] をクリックします。  
すべてのリムーバブルドライブまたはフロッピーディスクをスキャンするように選択した場合、スキャンは自動的に始まります。ドライブ、フォルダ、ファイルをスキャンするように選択した場合、スキャンするドライブ、フォルダ、ファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。
- 5 ダイアログボックスで選択した後で [スキャン (S)] をクリックします。  
スキャンが完了するとスキャンの概略が表示されます。
- 6 概略の見直しが終わったら [完了] をクリックします。

## スキャン中に問題が見つかった場合

p.6-1の「スキャン中にウイルスが見つかった場合」を参照してください。

スキャンの最後に Norton AntiVirus のスキャン中に見つかった内容の概略レポートが表示されます。ウイルスが見つかったときに Norton AntiVirus によるファイルの自動修復を指定してあれば、そのファイルは修復済みとしてリストに表示されます。修復できないファイルの場合には検疫または削除できます。

## カスタムスキャンの作成と使い方

p.4-8の「カスタムスキャンのスケジュール設定」を参照してください。

コンピュータの特定の要素を定期的にスキャンする場合にそのスキャン要素を毎回指定する必要がないようにしたい場合はカスタムスキャンを作成できます。カスタムスキャンは自動的に実行するようにもスケジュール設定できます。

不要になったカスタムスキャンは削除できます。たとえば、頻繁にファイル交換をする必要があるプロジェクトで作業している場合、そのファイルのコピー先フォルダを作成し、使う前にファイルをスキャンする必要があります。プロジェクトが完了したら、そのフォルダのカスタムスキャンは削除できます。

### カスタムスキャンを作成するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [ウイルススキャン (F)] をクリックします。
- 3 ウイルススキャンペインの [処理] で [新規 (N)] をクリックします。
- 4 Norton AntiVirus スキャンウィザードの開始ウィンドウで [次へ (N)] をクリックします。
- 5 次の一方または両方の操作をします。
  - スキャンする個々のファイルを選択するには [ファイルの追加 (E)] をクリックします。
  - スキャンするフォルダやドライブを選択するには [フォルダの追加 (F)] をクリックします。両方のオプションを使って必要な項目を組み合わせて選択できます。
- 6 表示されるダイアログボックスでスキャンしたい項目を選択します。フォルダを選択した場合、そのフォルダの中のすべてのファイルが含まれます。ドライブを選択した場合、そのドライブ上のすべてのフォルダとファイルが含まれます。
- 7 次のいずれかの操作をして選択した項目をスキャンする項目のリストに追加します。
  - [ファイルのスキャン] ダイアログボックスで [開く (O)] をクリックします。
  - [フォルダのスキャン] ダイアログボックスで [追加 (A)] をクリックします。
- 8 リストから項目を削除するにはその項目を選択してから [削除 (R)] をクリックします。
- 9 スキャンする項目のリストの作成が終わったら [次へ (N)] をクリックします。
- 10 スキャンリストで識別できる名前をそのスキャンに対し入力します。
- 11 [完了] をクリックします。

## カスタムスキャンの実行

カスタムスキャンを実行する場合、スキャンしたい項目を再定義する必要はありません。

### カスタムスキャンを実行するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。

- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [ウイルススキャン (F)] をクリックします。
- 3 ウイルススキャンペインでカスタムスキャンを選択します。
- 4 [処理] で [スキャン (S)] をクリックします。  
スキャンが完了するとスキャンの概略が表示されます。
- 5 概略の見直しが終わったら [完了] をクリックします。

## カスタムスキャンの削除

不要になったカスタムスキャンは削除できます。

カスタムスキャンを削除するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [ウイルススキャン (F)] をクリックします。
- 3 ウイルススキャンペインで削除したいスキャンを選択します。
- ❗ スキャン名の左側にあるボタンをクリックした場合、そのスキャンが実行されます。
- 4 [処理] で [削除] をクリックします。
- 5 スキャンを削除してよければ [はい (Y)] をクリックします。

## スキャンのスケジュール設定

Norton AntiVirus をインストールして情報ウィザードを完了するとき、インストール後のタスクの一部としてシステムの完全スキャンを週に1回実行するスケジュールを選択できます。そのように選択した場合、スキャンは自動的にスケジュール設定されます。

特定の日時または定期的に無人で実行されるカスタマイズ済みウイルススキャンをスケジュール設定できます。定時スキャンの開始時にコンピュータを使っている場合、作業を中断しなくてもすむように定時スキャンはバックグラウンドで実行されます。

- ❗ スキャンリストの事前定義済みスキャンをスケジュール設定することはできませんが、作成したカスタムスキャンのスケジュール設定はできます。

## カスタムスキャンのスケジュール設定

カスタムスキャンのスケジュール設定は完全に自由にできます。スキャンを実行したい頻度（日単位、週単位、月単位など）を選択すると、その要求をさらに細かく定義できる追加フィールドが表示されます。たとえば、日単位のスキャンを要求して、それを2日または3日の間隔で実行するようにスケジュール設定できます。

### カスタムスキャンをスケジュール設定するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [ウイルススキャン (F)] をクリックします。
- 3 ウイルススキャンペインでスケジュール設定したいスキャンを選択します。



スキャン名の左側にあるボタンをクリックした場合、そのスキャンが実行されます。

- 4 [タスクのスケジュール] で [スケジュール (C)] をクリックします。
- 5 [スケジュール] ダイアログボックスで [複数のスケジュールを表示する (U)] にチェックマークが付いている場合には [新規 (N)] をクリックしてスケジュールフィールドを有効にします。チェックマークが付いていない場合には各フィールドはすでに有効になっています。
- 6 スキャンを実行したい頻度と時間を設定します。ほとんどの頻度オプションに、さらにスケジュールを細かく定義できる追加オプションがあります。必要に応じて追加オプションを設定します。
- 7 完了したら [OK] をクリックします。

スキャンには複数のスケジュールを作成することもできます。たとえば、作業する日の最初と最後に同じスキャンを実行できます。

### 単一のスキャンに複数のスケジュールを作成するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [ウイルススキャン (F)] をクリックします。
- 3 ウイルススキャンペインでスケジュール設定したいスキャンを選択します。



スキャン名の左側にあるボタンをクリックした場合、そのスキャンが実行されます。

- 4 [タスクのスケジュール]で[スケジュール(C)]をクリックします。
- 5 [スケジュール] ダイアログボックスで[複数のスケジュールを表示する(U)]にチェックマークを付けます。
- 6 追加のスケジュールを設定するには[新規(N)]をクリックします。
- 7 スキャンを実行したい頻度と時間を設定します。  
ほとんどの頻度オプションに、さらにスケジュールを細かく定義できる追加オプションがあります。必要に応じて追加オプションを設定します。
- 8 完了したら[OK]をクリックします。

## 定時スキャンの編集

週に1回のシステムの完全スキャンを含み、どの定時スキャンのスケジュールも変更できます。

定時スキャンを編集するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで[ウイルススキャン(F)]をクリックします。
- 3 ウイルススキャンペインでスケジュール設定したいスキャンを選択します。



スキャン名の左側にあるボタンをクリックした場合、そのスキャンが実行されます。

- 4 [タスクのスケジュール]で[スケジュール(C)]をクリックします。
- 5 希望に応じてスケジュールを変更します。
- 6 [OK]をクリックします。

## スキャンスケジュールの削除

スキャンスケジュールは削除できます。スケジュールを削除してもそのスキャンは削除されません。

スキャンスケジュールを削除するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで[ウイルススキャン(F)]をクリックします。
- 3 ウイルススキャンペインでスケジュール設定したいスキャンを選択します。



スキャン名の左側にあるボタンをクリックした場合、そのスキャンが実行されます。

- 4 [タスクのスケジュール]で[スケジュール(C)]をクリックします。
- 5 [スケジュール] ダイアログボックスで[複数のスケジュールを表示する(U)]にチェックマークを付けます。
- 6 (複数あれば) 削除したいスケジュールを選択します。
- 7 [削除(D)] をクリックします。
- 8 [OK] をクリックします。

# LiveUpdate による最新 の保護体制の維持

# 5

シマンテック製品は最新の情報に基づいて新種の脅威からコンピュータを保護します。この情報はシマンテック社の LiveUpdate を使って利用できます。インターネット接続を使って LiveUpdate はプログラムの更新版と保護ファイルの更新版をコンピュータ用に入手します。

LiveUpdate を使う場合、通常のインターネット接続料金が別途必要です。



Norton AntiVirus を Windows 2000/XP で使う場合、LiveUpdate を実行するには管理者のアクセス権が必要です。

## プログラムの更新版について

プログラムの更新版はインストール済み製品に対するわずかな改良です。プログラムの更新版は製品全体が新しいバージョンに変わる製品のアップグレードとは異なります。既存のソフトウェアコードを置き換える自己インストーラを備えたプログラムの更新版はパッチともいいます。パッチは通常はオペレーティングシステムまたはハードウェアの互換性を拡張するため、処理効率の問題を調整するため、バグを修正するために作成されます。

LiveUpdate はプログラムの更新版を入手してインストールする処理を自動化します。つまり、インターネットサイトでファイルを検索して入手しインストールした後でコンピュータの残がいファイルを削除します。

## 保護ファイルの更新版について

保護ファイルの更新版はシマンテック社から更新サービスで利用できるファイルです。このファイルがあるとシマンテック製品は脅威対策の最新の技術で新種の脅威に対処できます。受け取る更新版はどの製品を使っているかによって異なります。

Norton AntiVirus、 Norton SystemWorks	Norton AntiVirus と Norton SystemWorks のユーザーはウイルス定義ファイルの更新サービスを受けます。これによってシマンテック社が用意する最新のウイルスシグネチャと他の技術にアクセスできます。
Norton Internet Security	Norton Internet Security のユーザーはウイルス定義ファイルのほかに Web フィルタリング、侵入検知、スパム警告に対する保護ファイルの更新サービスも受けます。  Web フィルタリングの更新ファイルは不適切な Web コンテンツを識別するため使う Web サイトアドレスと Web サイトカテゴリの最新のリストです。  侵入検知の更新ファイルは最新の定義済みファイアウォールルールとインターネットにアクセスするアプリケーションの更新済みリストです。このリストは権限のないコンピュータアクセスの試みを識別するために使います。  スパム警告の更新ファイルは最新のスパム定義とスパムメールの性質の更新済みリストです。このリストは迷惑メールを識別するために使われます。
Norton Personal Firewall	Norton Personal Firewall のユーザーは侵入検知に使う定義済みファイアウォールルールとインターネットにアクセスするアプリケーションのリストに対する更新サービスを受けます。

## 更新サービスについて

シマンテック製品の更新サービスではその製品の保護ファイルの更新版を期間限定で無料で更新できます。更新サービスの期限切れ予定が近づくと、更新サービス申し込みのメッセージが表示されます。

更新サービスを申し込まない場合でも LiveUpdate を使ってプログラムの更新版は取り込めます。しかし、ウイルス定義ファイルなどの保護ファイルの更新版は取り込めないため、新種の脅威からは保護されなくなります。

## 更新する頻度

コンピュータを新種の脅威から守るためには、シマンテック製品を購入してインストールした直後に LiveUpdate を実行することをお勧めします。最新のファイルを手に入れたらそれ以降は定期的に LiveUpdate を実行して更新版を手入してください。たとえば、最新のウイルス定義ファイルを手入手するには1週間に1回または新種のウイルスが発見されたときに必ず LiveUpdate を使ってください。プログラムの更新版は必要に応じてリリースされます。

## 更新の警告の要求

最新の保護ファイルが必ずあるようにするために、高レベルのウイルスアウトブレイクまたは他のインターネットセキュリティの脅威があるときに常に電子メールで警告を受信するように要求できます。電子メールの警告は脅威を説明し、検出と除去の方法を示し、コンピュータを安全に維持するための助言を表示します。このような警告のいずれかを受信した後は必ず LiveUpdate を実行してください。

更新の警告を要求するには

- 1 Web ブラウザで [www.symantec.com/region/jp/sarcj/index.html](http://www.symantec.com/region/jp/sarcj/index.html) に移動します。
- 2 画面の指示に従って操作してください。

## 社内ネットワーク上で LiveUpdate を実行する場合

会社のファイアウォールの背後にあるネットワークに接続しているコンピュータ上で LiveUpdate を実行する場合にはネットワーク管理者がネットワーク上に社内 LiveUpdate サーバーを設定していることがあります。LiveUpdate はこの場所を自動的に見つけるはずですが、

社内 LiveUpdate サーバーとの接続に問題がある場合にはネットワーク管理者に問い合わせてください。

## LiveUpdate 以外による更新版の入手

LiveUpdate を使えない場合にはインターネットを使う方法でのみ更新版を手入手できます。インターネット経由でシマンテック社の Web サイトから入手してください。

❗ シマンテック社の Web サイトから保護ファイルの更新版を入手するには更新サービスが最新の状態である必要があります。

Web サイト から 更新版を入手するには

- 1 Web ブラウザで次のサイトに進みます。  
<http://www.symantec.com/region/jp/sarcj/>
- 2 必要な種類の更新版を入手するためにリンクをたどります。

## LiveUpdate を使って更新版を入手

LiveUpdate はコンピュータにインストールされているすべてのシマンテック製品に対する更新版の有無を調べます。

LiveUpdate を使って更新版を入手するには

- 1 シマンテック製品を開きます。
- 2 ウィンドウ上部にある [LiveUpdate] をクリックします。  
更新サービスの期限が切れたことを示す警告が表示されることがあります。画面の指示に従って操作して更新サービスの申し込みを完了してください。
- 3 LiveUpdate ウィンドウで更新版を見つけるために [次へ (N)] をクリックします。
- 4 更新版が利用可能な場合には [次へ (N)] をクリックしその更新版をダウンロードしてインストールします。
- 5 インストールが完了したら [完了] をクリックします。

❗ プログラムの更新版はインストールの後でコンピュータの再起動を要求することがあります。

## LiveUpdate を対話モードまたは高速モードに設定

LiveUpdate は対話モードまたは高速モードで動作します。対話モード (デフォルト) では LiveUpdate は LiveUpdate 技術がサポートするシマンテック製品に利用可能な更新版のリストをダウンロードします。どの製品の更新版をインストールしたいかをユーザーが選択できます。高速モードでは LiveUpdate はシマンテック製品に利用可能なすべての更新版を自動的にインストールします。

LiveUpdate を対話モードまたは高速モードに設定するには

- 1 シマンテック製品を開きます。
- 2 ウィンドウ上部にある [LiveUpdate] をクリックします。
- 3 LiveUpdate によるこそ画面で [設定 (C)] をクリックします。
- 4 [LiveUpdate の設定] ダイアログボックスの [一般] ページで [対話モード (I)] または [高速モード (E)] を選択します。
- 5 [高速モード (E)] を選択した場合には更新版の有無を調べるためにどう開始したいかを選択します。
  - 更新を取り消せるようにするには [[開始 (S)] をクリックして LiveUpdate の実行を開始する (S)] を選択します。
  - LiveUpdate の起動時に必ず更新版を自動的にインストールするには [LiveUpdate を自動的に起動する (W)] を選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

## 高速モードをオフにする

高速モードで動作するように LiveUpdate を設定した後は LiveUpdate から直接 [LiveUpdate の設定] ダイアログボックスは表示できなくなります。[Symantec LiveUpdate] コントロールパネルを使う必要があります。

高速モードをオフにするには

- 1 Windows のスタートメニューで [設定 (S)]、[コントロールパネル (C)] の順に選択します。
- 2 コントロールパネルのウィンドウで [Symantec LiveUpdate] をダブルクリックします。
- 3 [LiveUpdate の設定] ダイアログボックスの [一般] ページで [対話モード (I)] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## LiveUpdate の自動実行

自動 LiveUpdate を有効にすることによって設定スケジュールに基づき LiveUpdate で保護ファイルの更新版の有無を自動的に調べることができます。製品の更新版を受け取るには引き続き LiveUpdate を手動で実行する必要があります。



自動 LiveUpdate は接続が見つかるまでは 5 分ごと、その後は 4 時間ごとにインターネット接続の有無を調べます。インターネットサービスプ

ロバイダ（ISP）に自動的に接続する設定の ISDN ルーターがある場合には接続回数が多くなり、接続のたびに接続料金と電話料金がかかる結果になります。これが問題になる場合には ISP に自動的に接続しないように ISDN ルーターを設定するか、Norton AntiVirus オプションで自動 LiveUpdate を無効にしてください。

#### 自動 LiveUpdate を有効にするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウ上部にある [オプション (O)] をクリックします。
- 3 [Norton AntiVirus オプション] ダイアログボックスの [インターネット] で [LiveUpdate] をクリックします。
- 4 LiveUpdate ペインで [自動 LiveUpdate を有効にする (E) (推奨)] にチェックマークを付けます。
- 5 次のいずれかを選択して更新版をどう適用したいかを設定します。



[操作を中断しないで更新版を適用する (A) (推奨)]

LiveUpdate は保護ファイルの更新版の有無を調べ、ユーザーにメッセージを表示しないでインストールします。時々 LiveUpdate を実行してプログラムの更新版の有無を調べる必要があります。

[更新版が利用可能なときに通知する (N)]

LiveUpdate は保護ファイルの更新版の有無を調べ、インストールしたいかどうかの確認メッセージをユーザーに表示します。

- 6 [OK] をクリックします。

自動 LiveUpdate のスケジュールを削除するには自動 LiveUpdate を無効にします。

#### 自動 LiveUpdate を無効にするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウ上部にある [オプション (O)] をクリックします。
- 3 [Norton AntiVirus オプション] ダイアログボックスの [インターネット] で [LiveUpdate] をクリックします。



- 4 LiveUpdate ペインで [自動 LiveUpdate を有効にする (E) (推奨)] のチェックマークをはずします。
- 5 [OK] をクリックします。



# コンピュータでウイルスが見つかったときの処理

# 6

Norton AntiVirus でコンピュータ上にウイルスが見つかった場合には次の3通りの方法でその問題を解消することが考えられます。

- ❖ ファイルを修復する  
ファイルから**ウイルス**を除去します。**脅威**がワームまたはトロイの木馬の場合にはファイルを削除します。
- ❖ ファイルを検疫する  
Norton AntiVirus 以外のプログラムがこのファイルにアクセス不能になります。このファイルを誤って開きウイルスが伝染する可能性はありませんが、シマンテック社への提出のためにファイルの評価できます。
- ❖ ファイルを削除する  
ウイルス、ワーム、トロイの木馬のいるファイルを削除することによってコンピュータからウイルスを除去します。この処理をするのはファイルの修復も検疫もできない場合のみにしてください。

p.6-7の「検疫にファイルがある場合」を参照してください。

悪質な**脅威**は手動スキャン中や定時スキャン中または**感染ファイル**の処理時に Auto-Protect によって見つかる可能性があります。脅威はインスタントメッセージセッション中または電子メールの送信時にも見つかる可能性があります。脅威にどう対処するかは脅威がスキャンによって見つかったか Auto-Protect によって見つかったかで異なります。

## スキャン中にウイルスが見つかった場合

スキャン中またはインスタントメッセージセッションでウイルス、トロイの木馬、ワームのいずれかが見つかった場合には自動修復または自動削除の結果の概略が表示されるか、修復ウィザードを使って問題を解消する必要があるかのいずれかです。

## 修復の詳細の見直し

ファイルを自動的に修復または削除するように Norton AntiVirus の手動スキャンオプションを設定した場合にすべての感染ファイルを修復または削除できると、スキャンの概略のリストに感染ファイルの数と修復ファイルまたは削除ファイルの数が表示されます。この情報は状態確認のためだけに示されます。コンピュータを保護するためにこれ以上の処理をする必要はありません。もっと詳しく知りたい場合には修復の詳細を表示して、どのファイルが何の脅威に感染していたかを確認できます。

### 修復の詳細を見直すには

- 1 スキャナウィンドウの概略ペインで [詳細を表示 (M)] をクリックします。
- 2 結果の見直しが終わったら [完了] をクリックします。

## 修復ウィザードの使い方

修復できないファイルがある場合またはウイルスが見つかったときに処理を要求するように Norton AntiVirus のオプションを設定した場合には修復ウィザードが開きます。Norton AntiVirus が修復を試みなかった場合、修復ウィザードは修復ペインで開きます。それ以外の場合には検疫ウィンドウで開きます。

### 修復ウィザードを使うには

- 1 修復ウィザードが修復ペインで開く場合には Norton AntiVirus で修復したくないファイルのチェックマークをはずします。  
デフォルトではすべてのファイルにチェックマークが付いています。これが推奨する処理です。
- 2 [修復] をクリックします。  
修復または削除できないファイルがある場合には検疫ウィンドウが開きます。
- 3 検疫ウィンドウで検疫したくないファイルのチェックマークをはずします。  
デフォルトでは検疫に追加するためにすべてのファイルにチェックマークが付いています。これが推奨する処理です。
- 4 [検疫] をクリックします。  
検疫できないファイルがある場合には削除ペインが開きます。
- 5 削除したくないファイルのチェックマークをはずします。

- 6 [削除] をクリックします。  
感染ファイルを削除しないと、コンピュータ上にウイルスが残り、他のファイルを損傷したり伝染する可能性があります。  
すべてのファイルに修復、検疫、削除のいずれかの処理をした後でスキャナウィンドウの概略ペインが開きます。
- 7 概略の見直しが終わったら [完了] をクリックします。



ハードディスクドライブ上のブートウイルス感染の修復後はコンピュータを再起動してください。

## Auto-Protect によってウイルスが見つかった場合

Auto-Protect はファイルを開く、コピー、移動するなどの操作時にファイルをスキャンしてウイルスなどの悪質な脅威の有無を調べます。ウイルスまたはウイルスらしい活動が検出されると、ほとんどの場合、ウイルスが見つかりその感染を修復したことを示す警告が表示されます。そこからどう進むかは使っているオペレーティングシステムで異なります。

### Windows 98/98SE/Me を使っている場合

Windows 98/98SE/Me で Auto-Protect によってウイルスまたは脅威が見つかりその感染が修復された場合には修復ファイルまたは削除ファイルを示す警告が表示されます。

警告を閉じるには

- ❖ [完了] をクリックします。

ウイルスが見つかったときの処理をAuto-Protectが要求するようにオプションを設定した場合には警告によって処理の選択が要求されます。推奨する処理が必ず事前を選択されています。

処理	結果
[感染ファイルを修復する]	ウイルス、トロイの木馬、ワームを自動的に除去して感染ファイルを修復または削除します。ウイルスが見つかったときに常に最善の選択肢です。
[感染ファイルを検疫する]	感染ファイルを特別な領域に隔離します。脅威は（伝染しなくなりますが）除去されません。未知の脅威による感染の疑いがある場合に選択してください。検疫された感染ファイルはシマンテック社に提出して分析を依頼できます。
[感染ファイルを削除する]	感染ファイルを削除することによって脅威を除去します。削除するのは修復できない場合に最善の選択肢です。感染ファイルを削除した後で未感染の同じファイルをバックアップディスクからコピーし直してください。その後で再びウイルス、トロイの木馬、ワームのいずれかが検出されたらバックアップディスクのファイルが感染しています。
[ファイルを開かないで問題を放置する]	感染ファイルが使われないように現在の操作を中止します。この処理で問題は解決しません。次回同じことをすると警告が表示されます。
[問題を無視して、今後このファイルをスキャンしない]	脅威がいる疑いのあるファイルを除外リストに追加します。除外リストに追加されたファイルは、リストから削除しない限り今後ウイルススキャンから除外されます。ファイルにウイルスがないことがわかっている場合にのみ選択してください。
[問題を無視して、感染ファイルのスキャンを続行する]	現在の操作を続行します。問題は解決しません。ウイルス、トロイの木馬、ワームの活動でないという確信がある場合にのみ選択してください。後で再び警告が表示されます。どうしたらいいか確信がない場合には[ファイルを開かないで問題を放置する]を選択してください。

ファイルを修復できない場合には修復しなかったことを示しファイルの検疫を推奨する警告が表示されます。[感染ファイルを修復する]を除いたすべてのオプションが使えます。

## Windows 2000/XP を使っている場合

Windows 2000/XPでAuto-Protectによって脅威が見つかりその感染が自動的に修復または削除された場合には修復ファイルまたは削除ファイ

ルとファイルに感染していたウイルス、トロイの木馬、ワームを示す警告が表示されます。インターネットに接続してシマンテック社の Web サイトでウイルス名をクリックすると、そのウイルスを説明する Web ページが開きます。

警告を閉じるには

- ❖ [OK] をクリックします。

ファイルを修復できない場合には 2 つの警告が表示されます。1 つは Auto-Protect でファイルを修復できなかったことを示し、もう 1 つは ファイルアクセスが拒否されたことを示します。

p.6-7 の「[検疫にファイルがある場合](#)」を参照してください。

Auto-Protect オプションは修復できない感染ファイルの検疫を試みるように設定できます。そのように設定した場合、ファイルが検疫されると通知されます。

未修復ファイルの問題を解消するには

p.4-4 の「[システムの完全スキャンの実行](#)」を参照してください。

1 コンピュータ上でシステムの完全スキャンを実行して、他のファイルがウイルスに感染していないことを確認します。

p.6-1 の「[スキャン中にウイルスが見つかった場合](#)」を参照してください。

2 修復ウィザードの推奨する処理に従ってコンピュータを感染ファイルから保護します。

## スクリプト遮断によってウイルスが見つかった場合

p.4-1 の「[保護設定の確認](#)」を参照してください。

スクリプト遮断は Visual Basic と JavaScript のスクリプトをウイルススキャンします。ウイルスまたはウイルスらしい活動が検出されると、ほとんどの場合、潜在的な脅威が見つかったことを示す警告が表示されます。

いずれかのオプションを選択して脅威を除去する必要があります。推奨する処理はスクリプトの実行を停止することです。警告の [ヘルプ] をクリックすると応答のしかたについての補足情報が表示されます。

## ワーム遮断によって脅威が見つかった場合

p.4-1 の「[保護設定の確認](#)」を参照してください。

自己またはその複製を電子メールで送信しようとするプログラムは電子メールによる伝染を試みるワームである可能性があります。ワームはユーザーとの対話なしで自己またはその複製を電子メールメッセージで送信できます。

ワーム遮断は発信電子メールの添付ファイルを絶え間なくスキャンしてワームの有無を調べます。ワームが検出された場合には悪質なワームが見つかったことを示す警告が表示されます。

警告ではオプションが表示され処理を選択するように要求されます。このとき電子メールメッセージを送信しようとしていなかった場合にはおそらくワームと考えられるのでファイルを検疫してください。警告の[ヘルプ]をクリックすると応答のしかたについての補足情報が表示されます。

脅威に応答してファイルを削除した後でもシステムが感染している可能性があります。LiveUpdate を実行してシステムをスキャンし、必要に応じてシマンテック・セキュリティ・レスポンスの Web サイト (<http://www.symantec.com/region/jp/sarcj/>) にアクセスして最新のウイルス定義ファイルのクリーンアップツールを入手してください。

## システムファイルの変更について予防接種の警告が表示される場合

⚠ 予防接種による保護は Windows 98/98SE/Me システムのみで利用できます。

p.4-1の「保護設定の確認」を参照してください。

システムファイルはいろいろな理由で変更されます。オペレーティングシステムの更新、ハードディスクのパーティションの再分割、ウイルスの感染などの理由が考えられます。システムファイルが変更されると Norton AntiVirus の警告が表示されます。

システムファイルの変更についての警告が表示された場合には2つのオプションがあります。予防接種のスナップショットを更新するかファイルを修復します。ファイルを修復する前にウイルス定義ファイルが最新であることを確認してスキャンを実行してください。

予防接種の変更に応答するには

❖ 警告ウィンドウで必要な処理を選択します。次の選択肢があります。

[保存してあるマスターブートレコードを更新します]

システムファイルの正当な変更の後に警告が表示された場合に使います。

[マスターブートレコードを復元します]

システムの変更が正当な理由でないことを確信している場合に使います。

## 検疫にファイルがある場合

検疫に入った後のファイルに対する処理オプションはいろいろあります。検疫にあるファイルに対するすべての処理は検疫ウィンドウを使って実行してください。

### 検疫ウィンドウを開くには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [レポート (E)] をクリックします。
- 3 レポートペインの検疫項目の行で [レポートを表示 (V)] をクリックします。



検疫ウィンドウ上部のツールバーには検疫にあるファイルに対して実行できるすべての処理のボタンがあります。

[項目の追加]	ファイルを検疫に追加します。この処理は感染の疑いのあるファイルを検疫するために使います。すでに検疫に入っているファイルには影響しません。
[プロパティ]	選択したファイルとそのファイルに感染しているウイルスについての詳しい情報を表示します。
[項目の修復]	選択したファイルの修復を試みます。この処理はファイルを検疫に追加した後で新しいウイルス定義ファイルを入手した場合にしてください。
[項目の復元]	選択したファイルを修復しないで元の場所に戻します。
[項目の削除]	選択したファイルをコンピュータから削除します。

[項目の提出]	選択したファイルをシマンテック社に送信します。このオプションは Norton AntiVirus で検出されなくてもファイルが感染している疑いがある場合に使います。
[LiveUpdate]	LiveUpdate を実行して新しいウイルス定義ファイルとプログラムの更新版の有無を調べます。このオプションはウイルス定義ファイルをしばらく更新していなかった場合に検疫にあるファイルの修復を試みるときに使います。

### 検疫にあるファイルを処理するには

- 1 処理したいファイルを選択します。
- 2 ツールバーで実行したい処理を選択します。
- 3 完了したらファイルメニューで [終了 (X)] を選択します。

## Norton AntiVirus がファイルを修復できない場合

「第5章 LiveUpdate による最新の保護体制の維持」を参照してください。

Norton AntiVirus が感染ファイルを自動的に修復または削除できない最も一般的な原因の1つはコンピュータ上のウイルス定義ファイルが最新でないことです。LiveUpdate でウイルス定義ファイルを更新してから再びスキャンします。

それでも修復できない場合にはレポートウィンドウに表示される指示を注意深く読み、修復できない項目の種類を識別してから適切な処理をしてください。

ファイルの種類	処理
感染ファイルは（通常 .EXE の拡張子が付く）実行可能ファイルです。データファイル（.DOC、.DOT、.XLS などの拡張子が付くファイル）もマクロウイルスに感染することがあります。	問題を解決するには修復ウィザードを使います。 <a href="#">p.6-2 の「修復ウィザードの使い方」</a> を参照してください。
感染ファイルはディスクのシステム領域（ハードディスクのマスターブートレコード、ブートレコード、フロッピーディスクのブートレコード）またはシステムファイル（IO.SYS、MSDOS.SYS など）です。	システム領域を修復できない場合、救済ディスクセットを使って復元できます。オペレーティングシステムのディスクでシステム領域やシステムファイルを復元できることもあります。 <a href="#">p.3-4 の「救済ディスクセットについて」</a> を参照してください。

## コンピュータが正しく起動しない場合

p.2-2の「緊急用ディスクセットの作成」とp.3-4の「救済ディスクセットについて」を参照してください。

コンピュータ上にウイルスがいるときにそのウイルスを除去するために未感染のディスクからコンピュータを起動する必要がある場合または**ブートレコード**を復元する必要がある場合には救済ディスクセットを使います。救済ディスクセットがない場合には緊急用ディスクセットを使ってコンピュータを起動してウイルスを除去できます。ブートレコードを復元する必要があるのに救済ディスクセットがない場合またはシステムファイルを復元する必要がある場合には Windows を再インストールする必要があります。

## 救済ディスクセットを使う必要がある場合（Windows 98/98SE/Me）

ウイルスが原因で Windows コンピュータが正常に起動しなくなったときには救済ディスクセットが役立ちます。一部のウイルスを除去するには感染したハードディスクの代わりに未感染のディスクでコンピュータを起動する必要があります。そのような状況になると、Norton AntiVirus は**警告**を表示してユーザーに救済ディスクセットを使うように指示します。

救済ディスクセットを使う前に手もとの救済ディスクセットが最新の状態であることを確認してください。最新の状態とは次のような操作をした後で作成または更新したことを意味します。

- ハードウェアコンポーネントの追加、変更、取りはずし
- ハードディスクのパーティションの追加、再分割、削除
- オペレーティングシステムのアップグレード
- ウイルス定義ファイルの更新

救済ディスクセットに入っているウイルス定義ファイルが古いだけであれば、その救済ディスクセットを使っても問題はありません。新種のウイルスを完全には認識できない場合がありますが、システムに害はありません。

### 救済ディスクセットを使うには

- 1 基本救済ブートフロッピーディスク（基本救済ディスクセットの1枚目）をドライブ A に挿入してコンピュータを再起動します。Rescue プログラムが DOS で実行されます。

- 2 矢印キーを使って実行したいプログラムを選択します。  
選択したプログラムの説明が Rescue プログラムの右ペインに表示されます。次の選択肢があります。

[Norton AntiVirus]	コンピュータをウイルススキャンして感染ファイルを修復します。
[Rescue で回復]	ブートレコードとパーティションテーブルの情報を調べて復元します。

- 3 Enter キーを押し、選択したプログラムを実行します。
- 4 画面の指示に従って救済ディスクセットの挿入と取り出しをします。
- 5 Rescue プログラムが完了したらドライブ A の救済ディスクを取り出し、コンピュータを再起動します。

## 緊急用ディスクセットを使う必要がある場合

p.2-2の「緊急用ディスクセットの作成」を参照してください。

救済ディスクセットを作成していない場合には緊急用ディスクセットを使ってコンピュータを再起動してウイルススキャンできます。

### 緊急用ディスクセットを使うには

- 1 緊急用ディスク 1 をドライブ A に挿入してコンピュータを再起動します。  
緊急用プログラムが DOS で実行されます。
- 2 画面の指示に従って緊急用ディスク 2 を挿入し、Go と入力後 Enter キーを押して Norton AntiVirus 緊急用プログラムを開始します。
- 3 画面の指示に従って緊急用ディスクセットの挿入と取り出しをします。  
緊急用プログラムが自動的にコンピュータをスキャンしてウイルスを除去します。
- 4 緊急用プログラムが完了したらドライブ A の緊急用ディスクを取り出し、コンピュータを再起動します。

## CD を緊急用ディスクとして使う場合

Norton AntiVirus CD を緊急用ディスクとして使う場合、必要なすべての情報が CD 上にあるため、ディスク変更のすべての指示を無視できます。



CD-ROM ドライブで起動するようにコンピュータの BIOS 設定オプションを変更する必要があるかもしれません。

p.7-3の「コンピュータをフロッピーディスクドライブでブートできません」を参照してください。

### CDを緊急用ディスクとして使うには

- 1 Norton AntiVirus CDをCD-ROMドライブに挿入します。
- 2 コンピュータを再起動します。  
画面の指示に従ってコンピュータをスキャンしてウイルスを除去します。

## シマンテック社の Web サイトでのウイルスの検索

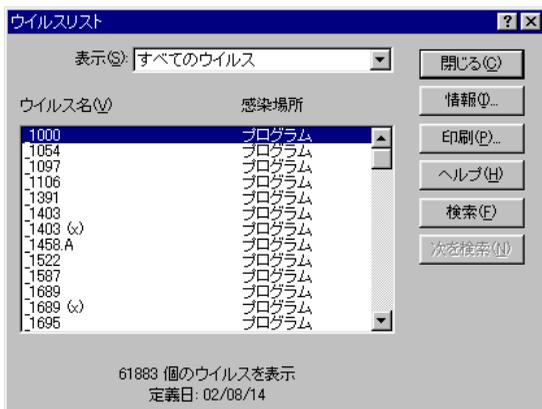
シマンテック社の Web サイトにすべての既知のウイルスと関連する悪質なコードのリストが説明と一緒に載っています。ウイルスを検索するにはインターネットに接続する必要があります。

### ウイルスを検索するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [レポート (E)] をクリックします。
- 3 レポートペインのオンラインウイルス辞典の行で [レポートを表示 (I)] をクリックします。  
インターネットブラウザにシマンテック社の Web サイトが開きます。
- 4 検索するウイルス情報に Web ページのリンクを使ってアクセスします。
- 5 次のいずれかの操作をします。
  - 検索するウイルス名を入力します。
  - アルファベット順リストをスクロールしてウイルスを見つけます。ウイルスを選択するとその説明が表示されます。

## Norton AntiVirus でのウイルスの検索

インターネットに接続していない場合には Norton AntiVirus 内部からウイルス名を検索できます。[ウイルスリスト]ダイアログボックスにローカルコンピュータ上にある現在のウイルス定義ファイルのウイルスのリストが表示されます。ウイルスの数が多いため、ウイルスリストファイルに各ウイルスの説明はありません。



「第5章 LiveUpdate  
による最新の保護  
体制の維持」を参照  
してください。

最新のウイルス定義ファイルがあることを確認するには LiveUpdate を実行します。

### ウイルスの名前と定義を検索するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [レポート (E)] をクリックします。
- 3 レポートペインのウイルスリストの行で [レポートを表示 (P)] をクリックします。

### 特定のウイルスについて詳しい情報を表示するには

- 1 [ウイルスリスト] ダイアログボックスで詳しい情報を表示したいウイルスを選択します。
- 2 [情報 (I)] をクリックします。
- 3 ウイルス情報の表示が終わったらウイルス情報ウィンドウで [閉じる (C)] をクリックします。

この章では、Norton AntiVirus を使っているときに起きやすい一般的な問題とその対策を示します。テクニカルサポートに連絡する前に、ここに示す手順に従って問題の解決を試みてください。

## シマンテック社のサービスとサポートの Web サイトでの情報探索

シマンテック社のサービスとサポートの Web サイトでは個人向け製品と企業向け製品に分けて情報が用意されています。

**シマンテック社のサービスとサポートの Web サイトで情報を探索するには**

- 1 シマンテック社の Web サイト (<http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/>) を参照します。
- 2 [個人 /SOHO ビジネスのお客さま] をクリックします。
- 3 製品 (Norton AntiVirus) とバージョン (2003) を選択して [次へ] をクリックします。
- 4 [次へ] をクリックします。

探している情報が見つからない場合には Web サイトの検索を試みます。

**シマンテック社の Web サイトを検索するには**

- 1 シマンテック社の Web サイトで [サーチ] をクリックします。
- 2 探している情報のキーワードとなる語句を入力します。  
検索方法については、Web サイト上のヘルプを参照してください。
- 3 検索したい Web サイトの項目と地域を選択します。

- 4 [検索] をクリックします。

## Norton AntiVirus のトラブルシューティング

Norton AntiVirus を使っているときの問題とその解決策を示します。

### 救済ブートディスクが動きません

ハードディスクの製造元は製品ごとに設定や初期化のための固有の技術を使うので、Rescue プログラムは必ずしもブート可能な救済ブートディスク（救済ディスクセットの1枚目）を自動的に作成できるとは限りません。次のいずれかの方法を試します。

- コンピュータ用の特別なブートディスクがある場合には、それを救済ディスクセットに追加します。ウイルスによる緊急時には、そのディスクから起動します。コンピュータが起動したらドライブからディスクを取り出し、救済ブートディスク（救済ディスクセットの1枚目）を挿入します。DOS プロンプトで `A:RSHELL` と入力してから Enter キーを押し、画面の指示に従って操作します。
- ディスクマネージャまたはコンピュータに付属の類似のプログラムを使って救済ブートディスクをブート可能にします。修正した救済ブートディスクを確認のためにテストしてください。

1台のコンピュータに2つ以上のオペレーティングシステム（たとえば、Windows 2000 と Windows 98）が入っていると救済ブートディスクがうまく動かないことがあります。

#### Windows 98 で救済ブート ディスクを修正するには

- 1 コンピュータをハードディスクから起動します。
- 2 救済ブートディスクをドライブ A に挿入します。
- 3 DOS プロンプトで `SYS A:` と入力します。
- 4 Enter キーを押します。

この操作によってオペレーティングシステムのファイルが救済ディスクセットにコピーされます。確認のために救済ブートディスクでコンピュータを再起動します。

## 「救済ディスクセットを使ってください」という警告メッセージが表示されますが、救済ディスクセットを作成していません

p.2-2の「CDから緊急用ディスクセットを作成するには」を参照してください。

Norton AntiVirus CD を使って救済ディスクセットの代わりに緊急用ディスクセットを作成できます。緊急用ディスクセットを使ってもほとんどの緊急時から回復できます。

p.6-10の「CDを緊急用ディスクとして使う場合」を参照してください。

CD-ROMドライブでコンピュータを起動できる場合にはNorton AntiVirusが入っているCDを緊急用ディスクとして使えます。

緊急用ディスクセットを作成したらそれを使って問題を解決します。

## コンピュータをフロッピーディスクドライブでブートできません

コンピュータが起動時にフロッピーディスクドライブを調べない場合、コンピュータのセットアッププログラムを使って設定を変更します。

コンピュータのセットアッププログラムを使って変更をするときには注意してください。特に初めて使う場合には、セットアッププログラムを起動する前にコンピュータのハードウェアのマニュアルに目を通してください。

### コンピュータの設定を変更するには

- 1 コンピュータを再起動します。  
画面に次のようなメッセージが表示されたらキーを押すことでセットアッププログラムを起動できる状態です。  
`Press F1 for Setup.`
- 2 画面の指示に従ってキーをいくつか押し、セットアッププログラムを起動します。
- 3 最初にドライブ A、次にドライブ C の順にブートするようにブートシーケンスを設定します。  
セットアッププログラムはハードウェアの製造元ごとに異なります。ブートシーケンスオプションが見つからない場合には、セットアッププログラムのヘルプかシステムに付属のマニュアルを参照するか、またはシステムの製造元に問い合わせてください。
- 4 変更を保存してセットアッププログラムを終了します。

救済ブートディスクではなく特別なブートディスクを使う必要があるかもしれません。その場合、コンピュータに付属のブートディスクまたは起動ディスクを使ってください。

p.7-2の「救済ブートディスクが動きません」を参照してください。

コンピュータに2つ以上のオペレーティングシステム（たとえば、Windows 2000 と Windows 98）がインストールされている場合には救済ブートディスクを修正する必要があるかもしれません。

## コンピュータの起動時に Auto-Protect がロードされません

Windows のタスクバーの右端に Norton AntiVirus Auto-Protect アイコンがない場合、Auto-Protect はロードされていません。原因としては以下の3つの可能性が考えられます。

Windows がセーフモードで起動した可能性があります。シャットダウンが正常に完了しなかった場合、Windows はセーフモードで再起動します。たとえば、Windows のスタートメニューで [Windows の終了 (U)] を選択する前にコンピュータの電源を切った場合です。

### Windows を再起動するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Windows のスタートメニューで [Windows の終了 (U)] を選択します。
- 3 [Windows の終了] ダイアログボックスで [再起動する (R)] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

Norton AntiVirus の設定が Auto-Protect を自動的に起動する状態になっていない可能性があります。

### Auto-Protect が自動的に起動するように設定するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [システム] で [Auto-Protect] をクリックします。
- 4 [Windows の起動時に Auto-Protect を起動する (S)(推奨)] にチェックマークが付いていることを確認します。

Norton AntiVirus の設定が Auto-Protect アイコンをトレイに表示する状態になっていない可能性があります。

### Auto-Protect アイコンをトレイに表示するには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。

- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [システム] で [Auto-Protect] をクリックします。
- 4 [Auto-Protect アイコンをトレイに表示する (H)] にチェックマークが付いていることを確認します。

## スキャンしてウイルスを除去しましたが、まだファイルがウイルスに感染しています

ウイルスが再び現れる理由としては以下の4つの可能性が考えられます。

Norton AntiVirus のスキャン対象になっていない拡張子が付くファイルにウイルスがいる可能性があります。

### Norton AntiVirus のスキャンオプションをリセットするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [システム] で [手動スキャン] をクリックします。
- 4 [ウイルススキャンするファイルの種類] で [完全ファイルスキャン (O)(推奨)] を選択します。
- 5 [手動スキャン] で [Bloodhound] をクリックします。
- 6 [Bloodhound ウイルス検出技術を有効にする (E)(推奨)] にチェックマークが付いていることを確認し、[最高の保護レベル (H)] を選択します。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 使うすべてのディスクをスキャンしてすべての感染ファイルを修復します。

感染源はフロッピーディスクの可能性もあります。使うすべてのフロッピーディスクをウイルススキャンしてウイルスがないことを確認します。

もう1つの理由として**ブートレコード**からウイルスを除去した後もメモリにウイルスが残っている可能性があります。そのためブートレコードに再び感染します。救済ディスクセットを使ってウイルスを除去します。

p.6-9の「救済ディスクセットを使う必要がある場合 (Windows 98/98SE/Me)」を参照してください。

共有ネットワークドライブ経由で送信されたトロイの木馬またはワームが問題の場合には Norton AntiVirus が問題を解決できるようにネットワークから接続解除するかドライブをパスワード保護する必要があります。

## 感染ファイルを Norton AntiVirus が修復できません

「第5章 LiveUpdate による最新の保護体制の維持」を参照してください。

Norton AntiVirus が**感染ファイル**を修復できない理由として最も考えられるのは最新のウイルス定義ファイルがコンピュータ上にないことです。新種のウイルスからコンピュータを保護するにはウイルス定義ファイルを定期的に更新します。

LiveUpdate を使ってもまだ感染ファイルを修復できない場合、ファイルが壊れているか、または最新のウイルス定義ファイルに定義が入っていない新種のウイルスに感染している可能性があります。次の2つの方法があります。

p.6-7の「**検疫にファイルがある場合**」を参照してください。

- ファイルを検疫してシマンテック社に提出します。
- 感染ファイルを削除します。感染ファイルがプログラムだった場合、インストールディスクでプログラムを再インストールします。感染ファイルがデータファイルだった場合、未感染のバックアップがあればバックアップディスクからコピーし直します。

## 基本救済ディスクセットをテストするとエラーが表示されます

救済ディスクセットをテストしたときに「Non-system disk, replace the disk and press any key」というメッセージが表示された場合、フロッピーディスクのブートファイルが正しく用意されていない可能性があります。

ディスクを再フォーマットしないで救済ブートディスクを修復して新しい救済ディスクセットを作成するには(Windows 98の場合)

- 1 救済ブートディスクを取り出してコンピュータを再起動します。
- 2 救済ブートディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 3 Windows のスタートメニューで [ファイル名を指定して実行 (R)] を選択します。
- 4 [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスで `sys a:` と入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

## 電子メールメッセージを受信できません

この問題に対する解決策は3通りが考えられます。

電子メール保護を一時的に無効にします。こうすると問題の電子メールメッセージがダウンロードできるようになり、電子メール保護を再び有効にできる可能性があります。電子メール保護が無効の間は AutoProtect とスクリプト遮断で保護されます。

**着信電子メール保護を一時的に無効にするには**

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [インターネット] で [電子メール] をクリックします。
- 4 [着信電子メールをスキャン (E)(推奨)] のチェックマークをはずします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 電子メールをダウンロードします。
- 7 着信電子メール保護を再び有効にします。

電子メールクライアントが**時間切れ**になった可能性があります。時間切れ保護が有効になっていることを確認します。

電子メールメッセージをダウンロードするときにまだ問題が起きる場合には電子メール保護を無効にします。

**電子メール保護を無効にするには**

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [インターネット] で [電子メール] をクリックします。
- 4 [着信電子メールをスキャン (E)(推奨)] のチェックマークをはずします。
- 5 [発信電子メールをスキャン (O)(推奨)] のチェックマークをはずします。
- 6 [OK] をクリックします。

## 電子メールメッセージを送信できません

電子メールサーバーとの接続が解除されたため Norton AntiVirus で電子メールメッセージを送信できなかった旨のメッセージが表示された場合、電子メールクライアントはメールの送受信後に自動的に接続解除する設定になっている可能性があります。

発信電子メールメッセージのウイルススキャンのために Norton AntiVirus はメッセージを捕捉してスキャンしてから電子メールプロバイダに送信します。この問題を解消するには電子メールクライアント内でこのオプションをオフにします。オフにするための操作手順については電子メールクライアントのマニュアルを参照してください。この問題は Norton AntiVirus の発信電子メールのスキャンを無効にして解消することもできます。

### 発信電子メールのスキャンを無効にするには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [オプション (O)] をクリックします。
- 3 オプションウィンドウの [インターネット] で [電子メール] をクリックします。
- 4 [発信電子メールをスキャン (O) (推奨)] のチェックマークをはずします。
- 5 [OK] をクリックします。

# 用語集

e-mail	「電子メール」を参照してください。
HTML	WWW上の文書用の標準言語（HyperText Markup Languageの略）。テキストファイルにコードを挿入してWebページの単語やイメージをユーザーにどう表示するか、文書間のハイパーテキストリンクをどう定義するかについてWebブラウザに指示します。
JavaScript	Javaに似ているがそれよりも機能が劣るスクリプト言語。JavaScriptのコードはWebページに入れて対話などの機能を追加できます。
LAN	Local Area Networkの略。リソースを共有する目的で接続されるコンピュータの集まり。LANのコンピュータは典型的には1本の伝送ケーブルで結ばれ、1つの建物または建物内の部署のような限られた場所に設置されます。
POP3	インターネット接続経路でリモートサーバーから電子メールを取り込むために使われる電子メールプロトコル（Post Office Protocol 3の略）。
Web サイト	単一の会社、部署、個人が管理するWebページの集まり。Webサイトはテキスト、グラフィック、音声と映像のファイル、他のWebページへのハイパーリンクを含むことができます。
Web ページ	重複のないURLで識別されるWWW上の単一の文書。Webページにはテキスト、ハイパーリンク、グラフィックを格納できます。

WWW	World Wide Web の略。世界中の Web サーバー上に格納されているハイパーテキスト文書の集まり。Web ともいいます。Web を使うと、HTML 形式で格納されている大量の文書に Web ページとして汎用アクセスできます。
アイコン	ファイル、フォルダ、ディスク、その他のオブジェクトを表現するために使う小さい絵。
アクセス権	ユーザーまたはグループがアクセスできるファイルや操作の種類と、それらのディレクトリやファイルに対しユーザーまたはグループに許可されていること。
圧縮ファイル	ディスクの空き容量を確保または転送時間を短縮する目的で特別なデータ記憶形式を使って圧縮したファイル。
インターネット	無数のコンピュータが接続している地球規模の分散ネットワーク。
ウイルス	ユーザーによる認知または許可なくコンピュータの動作を改変するように意図的に書かれた自己増殖プログラム。ウイルスは自己の複製を他のファイルに付着し、活動するとファイルを損傷したり、コンピュータの誤動作の原因になったり、不愉快なメッセージを表示するだけだったりします。自己増殖はウイルスとトロイの木馬プログラムやワームのような他のウイルスらしいコンピュータ感染とを区別します。「ウイルスらしい活動」も参照してください。
ウイルス定義	ウイルス対策プログラムが特定のウイルスの存在を認識してユーザーに通知できるようにするウイルス情報。「未知のウイルス」も参照してください。
ウイルス定義ファイル	Norton AntiVirus がウイルスの検出と感染ファイルの修復に使うファイル。ウイルス定義ファイルは定期的に更新する必要があります。LiveUpdate はウイルス定義ファイルの更新版をダウンロードする処理を自動化します。
ウイルスらしい活動	未知のウイルスによる可能性があるとして Norton AntiVirus が認める活動。ウイルスらしい活動の警告は必ずしもウイルスの存在を示すとは限りませんが調査するべきです。
ウイルスリスト	Norton AntiVirus にウイルスの定義があるすべてのウイルスを示すリスト。定期的に更新することが重要です。

オペレーティングシステム	コンピュータのハードウェアとソフトウェアの機能を制御してディスク、キーボード、マウスなどの入力装置と結び付けるプログラム。
書き込み禁止	書き込み禁止になっているディスクはウイルス感染を防ぎます。3.5 インチディスクを書き込み禁止にするには、ディスクの裏側のタブをスライドして穴が見えるようにします。「読み取り専用」も参照してください。
拡張子	ファイルを活動またはプログラムと関連付けることができる、ファイル名の最後の3文字。ファイルをダブルクリックするとそれに関連付けされたプログラムが起動します。拡張子の例を挙げると.txt（テキスト）や.exe（プログラム）があります。
感染ファイル	ウイルス、トロイの木馬、ワームが入っているファイル。
管理者	1. ネットワークの操作を管理する人。2. ネットワーク上でのプログラムのインストールとワークステーションへの配布のためのプログラム設定に責任のある人。ワークステーション上のセキュリティ設定の更新もできます。
既知のウイルス	Norton AntiVirus に定義があるウイルス。「ウイルス定義ファイル」も参照してください。
起動ディスク	コンピュータを起動するのに必要なシステムファイルが入っているディスク。緊急時にコンピュータを再起動するために使えるフロッピーディスクまたは CD を一般に指します。
脅威	データの破壊、暴露、修正やサービスの拒否の形でシステムに害を及ぼす可能性のある状況、イベント、人。
警告	エラーが起きたことまたは警告を知らせるために GUI で表示されるダイアログボックス。
検疫	ファイルを開くまたは実行する操作ができないように、ウイルスがいる疑いのあるファイルを隔離するように Norton AntiVirus が設定するディスクの場所。
時間切れ	特定のタスクを完了する必要がある前もって決められた期間。タスクの実行前または実行中に時間切れ値に達するとそのタスクは取り消されます。
実行可能ファイル	起動できるプログラムコードが入っているファイル。通常はプログラムまたはシステムファイルをいいます。

スクリプト	ユーザーの介入なしで実行できる命令のリスト。他の種類のプログラムとは異なり、スクリプトはテキストエディタまたはワープロで開くことができるため、変更が非常に簡単です。スクリプトの例としては、Visual Basic プログラムやネットワークログインスクリプトがあります。
ダウンロード	モデムまたはネットワークを通して1台のコンピュータシステムから別のコンピュータシステムにファイルを転送すること。最近ではインターネットのサイトまたはオンラインサービスのBBSからファイルを転送する動作を指すときによく使う用語です。
データファイル	プログラムによって作成されそのプログラムに関連付けされた、実行コードが入っていないファイル。ワープロ文書、データベース、表計算ワークシートなどはデータファイルの例です。
電子メール	コンピュータネットワーク経由で他の人とメッセージやファイルを交換する方法。送信用の一般的なプロトコルはSMTP (Simple Mail Transfer Protocol の略) で、受信用の一般的なプロトコルはPOP3 (Post Office Protocol 3 の略) とIMAP4 (Internet Message Access Protocol 4 の略) です。Web ベースの電子メールサービスはHTTP (HyperText Transfer Protocol の略) を送受信に使います。
トロイの木馬	役立ちそうだったり娯楽性があるように見えるけれども損傷を引き起こしたりシステムに悪意のあることをするように設計されていることがよくある破壊的なプログラム。ウイルスとは異なり、トロイの木馬は増殖しません。実行するとコンピュータ上で悪意のある動作をするものと、Back Orifice のようにハッカーのためにリモート制御機能を提供するものがあります。
ネットワーク	ユーザー間で情報とハードウェアを共有するために作業グループ内で互いに接続されているコンピュータとハードウェアの集まり。
パスワード	ネットワークまたはプログラムに対し身元を確認するためにユーザーが入力する文字列。最も安全なパスワードは推測しにくいパスワードで、大文字と小文字、数字、記号を組み合わせて作ります。
ハードディスク	ディスクとの間でデータの読み書きをするデバイス。
ファイルの種類	ファイルに格納される、プログラムとファイルを関連付けるコード。

ブートレコード	ディスクのアーキテクチャ（セクタサイズ、クラスタサイズなど）を識別する、各ディスクの先頭セクタ。起動ディスクの場合にはオペレーティングシステムをロードするプログラムもブートレコードに格納されます。
ブラウザ	GUIでインターネットのナビゲーションが簡単にできるソフトウェアアプリケーション。ブラウザを使うと、ユーザーは難しいコンピュータコマンドを覚えなくてもメニュー、アイコン、ボタンをクリックできます。Web クライアントともいいます。
プログラム	コンピュータで実行できる、特定の目的のために作られた一連の命令。たとえば、ワープロや表計算ソフトがあり、ソフトウェアともいいます。
未知のウイルス	Norton AntiVirus がウイルス定義ファイルに定義していないウイルス。「ウイルス定義ファイル」も参照してください。
読み取り専用	読み取りはできるが書き込みまたは消去できないデータが入っているディスクまたはフォルダ。「書き込み禁止」も参照してください。
リムーバブルメディア	固定であるハードディスクとは対照的な取りはずしできるディスク。リムーバブルメディアの例としては、フロッピーディスク、MO ディスク、CD（コンパクトディスク）があります。
ローカル	リモートコンピュータとは対照的な自分のコンピュータを指す用語。
ログ	コンピュータ上で起きるイベントと処理の記録。
ワーム	別のプログラムに感染しないで増殖するプログラム。ディスクからディスクに自己をコピーして広がるワームとメモリでのみ増殖しコンピュータの処理速度を低下させるワームがあります。



# 索引

## 英字

Adobe Acrobat Reader のインストール 3-16

Auto-Protect 1-6、3-3

一時的に無効にする 3-3

オプション 3-9

起動時にロードされない場合 7-4

有効にする 3-3、4-2

Bloodhound 1-5、3-10

オプション 3-9

CD-ROM ドライブでの起動 6-10

HTML 1-5

JavaScript 1-5

LiveUpdate 5-1

オプション 3-11

Norton AntiVirus

Windows エクスプローラからの  
アクセス 3-2

Windows トレーのアイコン 3-2

起動 3-1

更新版の入手 5-3

トラブルシューティング 7-2

Office プラグイン

状態 3-7

有効にする 3-11

README.TXT ファイル 2-8

Visual Basic Script 1-5

Web

フィルタリングの更新サービス 5-2

Web サイト 3-17、5-3

Windows

エクスプローラ 3-2

セーフモード 7-4

トレーアイコン 3-2、3-3

## あ行

アクセス

Norton AntiVirus ツール 3-1

アクセス権 5-1

圧縮ファイル 4-4

アンインストール

Norton AntiVirus 2-9

Norton AntiVirus の

古いバージョン 2-1

他のアンチウイルスソフトウェア 2-2

維持

保護体制 1-6

インスタントメッセージャー 4-2

オプション 3-11

転送されるファイルのスキャン 4-1

ファイルのスキャン 1-1

インストール 2-1、2-3

インターネットオプション 3-10

ウイルス

Auto-Protect によって

見つかった場合 6-3

Norton AntiVirus での検索 6-12

Web サイトでの検索 6-11

Windows 2000/XP を

使っている場合の修復 6-5

Windows 98/98SE/Me を  
 使っている場合の修復 6-3  
 警告 6-3  
 コンピュータの保護 4-1  
 避ける 1-6  
 システムの完全スキャン 4-4  
 スキャン中に見つかった場合 6-1  
 どのようにして伝染するか 1-3  
 働き 1-2  
 ファイルをシマンテック社に送信 6-8  
 ウイルス辞典 3-17  
 ウイルス定義ファイル 1-4、5-2  
 警告 3-11  
 ウイルスらしい活動 3-9  
 ウイルスリスト 6-12  
 オプション  
     Norton AntiVirus 3-8  
     デフォルト設定に戻す 3-12  
     パスワード保護 3-13  
     変更 3-11  
 オペレーティングシステム  
     2つ以上 7-4  
 オンラインウイルス辞典 3-17

## か行

書き込み禁止 1-6  
 拡張オプション  
     Auto-Protect 3-9  
     電子メール 3-10  
 拡張子 3-9、6-8  
 カスタマイズ  
     設定 3-8  
 カスタムスキャン 4-5  
     削除 4-7  
     実行 4-6  
     スケジュール設定 4-8  
     スケジュールの削除 4-9  
     スケジュールの変更 4-9  
 活動ログ 3-13  
 監視  
     活動 3-13  
 完全スキャン  
     システム 4-4  
 感染ファイル  
     ウイルス除去後も感染 7-5

修復できない場合 7-6  
 管理者 2-2、5-1  
 既知のウイルス 1-4  
 起動  
     Auto-Protect が  
         ロードされない場合 7-4  
     CD-ROM ドライブから 6-10  
     Norton AntiVirus 3-1  
     救済ディスクセットから 6-9  
     救済ディスクセットを  
         作成していない場合 7-3  
     救済ブートディスクが動かない場合  
         7-2  
     コンピュータの設定の変更 7-3  
     ファイルのスキャン 3-11  
     フロッピーディスクドライブで  
         ブートできない場合 7-3  
 起動時にスキャン 3-11  
 救済ディスクセット 3-4  
     動かない場合 7-2  
     更新 3-6  
     作成 3-4  
     作成していない場合 7-3  
     使う必要がある場合 6-9  
     テスト 3-5  
     テストするとエラーが  
         表示される場合 7-6  
 脅威 5-1、6-1  
 [キーワード (N)] ページ 3-15  
 緊急時の準備 1-7  
 緊急用ディスクセット  
     CD を使う 6-10  
     作成 2-2  
     使う必要がある場合 6-10  
 警告  
     ウイルス定義ファイル 3-11  
 検疫 6-4、6-7  
     処理のボタン 6-7  
 更新  
     救済ディスクセット 3-6  
     頻度 5-3  
     保護ファイル 5-2  
 更新サービス 5-2  
 高速モード 5-4

## さ行

- 削除
  - Norton AntiVirus の古いバージョン 2-1
  - カスタムスキャン 4-7
  - 感染ファイル 6-4
  - スキャンスケジュール 4-9
- 作成
  - 救済ディスクセット 3-4
  - 緊急用ディスクセット 2-2
- 避ける
  - ウイルス 1-6
- 時間切れ保護 4-2
- システムオプション 3-9
- システム状態 3-6
- 実行
  - カスタムスキャン 4-6
- 実行可能ファイル 1-2
- 自動 LiveUpdate 3-11、5-5
- シマンテック社の Web サイト 3-17、6-11
  - 更新版の入手 5-3
- シマンテック社のサービスとサポートの Web サイト 7-1
- シマンテック・セキュリティ・レスポンス Web ページ 3-18
  - 接続 3-2
- シマンテックレスポンスセンター 3-17
- 修復 6-4
  - Windows 2000/XP を使っている場合 6-4
  - Windows 98/98SE/Me を使っている場合 6-3
- 修復ウィザード 6-2
- 手動スキャン 4-3
  - オプション 3-10
- 情報ウィザード
  - 使い方 2-7
- 除外オプション
  - Auto-Protect 3-9
  - 手動スキャン 3-10
- 新機能 1-1
- 侵入検知
  - 更新サービス 5-2
- スキャン
  - インストールの前に実行 2-3

- 起動時 3-11
- 救済ディスクセットから 6-9
- 個々の要素 4-4
- コンピュータ 4-4
- スケジュール設定 4-7
- 電子メール 3-10
- スキャンの概略 6-2
- スクリプト遮断 1-5、4-2、6-5
  - オプション 3-10
- スケジュール設定
  - LiveUpdate 5-5
  - カスタムスキャン 4-8
  - スキャン 4-7
- 接続
  - インターネットへの自動接続 5-5
- 設定
  - オプション 3-8
- セットアッププログラム
  - ブートシーケンスの変更 7-3
- セーフモード 7-4
- その他オプション 3-11

## た行

- ダイアログボックスのヘルプ 3-15
- 対話モード 5-4
- ダウンロード 5-4、7-7
- 提出
  - ファイルをシマンテック社に送信 6-8
- テクニカルサポート 3-17
- テスト
  - 救済ディスクセット 3-5
- データファイル 1-2、6-8
- デフォルトオプション 3-12
- 電子メール
  - オプション 3-10
  - スキャン 4-2
  - メッセージを受信できない場合 7-7
  - メッセージを送信できない場合 7-8
- トラブルシューティング
  - Norton AntiVirus 7-2
- トレイアイコン 3-2、3-3
- トロイの木馬 1-3

## な行

- ネットワーク
  - LiveUpdate の実行 5-3

## は行

- パスワード保護
  - オプション 1-2、3-11、3-13
- バックアップ
  - ファイルの修復前に
    - バックアップを作成 3-11
- ハードディスクドライブ
  - スキャン 4-4
- 表示
  - ボタンとメニュー 3-2
- ファイアウォール
  - LiveUpdate の実行 5-3
- ファイル
  - ウイルス除去後も感染 7-5
    - スキャン 4-4
  - ファイル拡張子 7-5
  - ファイルの種類 3-9、6-8
  - フォルダ
    - スキャン 4-4
- 復元
  - ブートレコードと
    - システムファイル 6-9
- 複数のスケジュール
  - 単一のスキャン 4-8
- ブート
  - Auto-Protect が
    - ロードされない場合 7-4
  - 救済ディスクセットを
    - 作成していない場合 7-3
  - 救済ブートディスクが
    - 動かない場合 7-2
  - フロッピーディスクドライブで
    - ブートできない場合 7-3
- ブラウザ 3-18、5-3
- プログラム 5-1、7-6
- フロッピーディスク
  - スキャン 4-4
- フロッピーディスクドライブ
  - ブートできない場合 7-3
- ヘルプ 3-15

## 変更

- オプション 3-8

## 編集

- 定時スキャン 4-9

## 保護ファイル

- LiveUpdate 以外による入手 5-3
- LiveUpdate を使って入手 5-4
- 更新版 5-5

## ま行

- マクロウイルス 1-2
- 未知のウイルス 1-4
- 無効にする
  - Auto-Protect 3-3
    - 自動 LiveUpdate 5-6
- [目次 (C)] ページ 3-15

## や行

- 有効にする
  - Auto-Protect 3-3
  - Office プラグイン 3-11
    - 自動 LiveUpdate 3-11
- 『ユーザーズガイド』の使い方 3-16
- 用語集の参照 3-14
- 予防接種 4-3
  - オプション 3-11
  - 警告 6-6
  - 変更への応答 6-6

## ら行

- リスト
  - ウイルス 6-12
- リムーバブルドライブ
  - スキャン 4-4
- リムーバブルメディア 1-6
- ローカル 2-7
- ログビューア 1-2

## わ行

- ワーム 1-3
- ワーム遮断 1-2、1-5、4-2、6-5